ViewSonic®

LS620X
DLP プロジェクター
ユーザーガイド

型番：VS16942

ViewSonic をお選びいただき、ありがとうございます。

ビジュアルソリューションの世界的大手プロバイダーとして 30 年以上 ViewSonic は、技術の進化、革新、そして簡単にするために、世界の期待を上回ることに専心してきました。ViewSonic では、当社の製品が世界に肯定的な影響を与える可能性を秘めていると信じています。そして、お客様が選択した ViewSonic 製品がお客様に役立つことを確信しています。

繰り返しになりますが、ViewSonic をお選びいただき、ありがとうございました。

ViewSonic®

規制情報

FCC 準拠に関する声明

本製品はFCC 規則パート15 に準拠しています。操作は次の2 つの条件に規制されます: (1) 電波障害を起こさないこと、 (2) 誤動作の原因となる電波障害を含む、受信されたすべての電波障害に対して正常に動作すること。
この装置はテストの結果、FCC 規制パート15 によるクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが証明されています。これらの制限は、住宅地区で使用した場合に、有害な電波干渉から適正に保護することを目的としています。この装置は電波を発生、使用しており、放出する可能性があるため、説明書に従って設置及び使用しないと、無線通信を妨害することがあります。ただし、特定の設置条件で電波干渉が起こらないという保証はありません。この装置がラジオやテレビの受信を妨害している場合は (装置をオフ/ オンにして調べることができます)、次の方法のいずれかまたはいくつかの組み合わせを試し、妨害を正すことをお勧めします：

- 受信アンテナの方向や位置を変える
- 装置と受信機の距離を離す
- 受信機を接続している回路とは別の回路の差し込みに装置を接続する
- ラジオ/ テレビの販売店か経験ある技術者に相談する

警告: FCC 準拠に責任を持つ第三者からの明確な許可を受けることなく、本体に承認されていない変更や改造が行われた場合には、本装置を使用する権利が規制される場合があります。

カナダ産業省（IC）宣誓書

CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

欧州諸国のCE 適合性

CE 装置はEMC 指令2014/30/EU および低電圧指令2014/35/EU に準拠しています。

以下の記述はEU 加盟国にのみ適用します。
このマークは、電気電子機器廃棄指令2012/19/EU (WEEE)に準拠しています。
マークは、使用済みまたは廃棄バッテリーまたはアキュムレーターを含む装置を、分別しない都市廃棄物として処分することをせず、回収と再利用できる収集システムを使用する要求を示します。

この装置に含まれるバッテリー、アキュムレーターとボタン電池に化学記号Hg、CdまたはPbが表示されている場合、それはバッテリーに0.0005%以上の水銀または0.002%以上のカドミウムまたは0.004%以上の鉛といった重金属を含んでいることを意味します。

RoHS2 準拠の通知

本製品は、電気および電子機器 (RoHS2 指令) に含まれる危険物質の使用の制限に関して、欧州議会および欧州委員会の指令 2011/65/EU に準拠して設計され製造され、次に示すように欧州技術適合委員会 (TAC) が発行した最大濃度値を遵守していると見なされています。

物質	提示された最大濃	実際の濃度
鉛 (Pb)	0.1%	< 0.1%
水銀 (Hg)	0.1%	< 0.1%
カドミウム (Cd)	0.01%	< 0.01%
六価クロム (Cr^{6+})	0.1%	< 0.1%
多臭素化ビフェニル (PBB)	0.1%	< 0.1%
ポリ臭素化ジフェニルエーテル (PBDE)	0.1%	< 0.1%

上に示した製品の成分の一部は、次に示すように RoHS2 指令の付録 III で免除されています。
免除された成分の例を、次に挙げます。

1. 以下を超えない、特殊目的用の例陰極蛍光灯と外部電極蛍光灯の水銀(CCFLとEEFL) (ランプごと):
   (1) 短距離(≦500 mm): 最大3.5 mg (ランプごと)。
   (2) 中距離(＞500 mmと≦1,500 mm): 最大5 mg (ランプごと)。
   (3) 長距離(＞1,500 mm): 最大13 mg (ランプごと)。
2. 陰極線管のガラスの鉛。
3. 重量で0.2%を超えない蛍光灯のガラスの鉛。
4. 最大0.4%の鉛(重量)を含むアルミの合金化元素としての鉛。
5. 最大4%の鉛(重量)を含む銅合金。
6. 高い融点タイプのはんだの鉛(つまり、重量で85%以上の鉛を含む鉛ベースの合金)
7. ピエゾエレクトロニクスデバイスなどのコンデンサ内、またはガラスまたはセラミックマトリクス複合体で、ガラスまたは誘電セラミック以外のセラミックに、鉛を含む電気および電子コンポーネント。

重要な安全な指示

1. 説明書を読んでください。
2. 説明書を保管してください。
3. 全ての警告に留意してください。
4. 全ての指示に従ってください。
5. 本体を水の近くで使わないでください。
6. 柔らかい、乾いた布で清掃してください。
7. 通気口を塞がないでください。メーカーの指示に従って本体をインストールしてください。
8. ラジエーター、熱交換機、ストーブまたは熱を発生する他の装置(アンプを含む)の近くには、設置しないでください。
9. 極性付きまたは接地タイプのプラグの安全構造を破壊しないでください。極性付きプラグは、2本のブレードの一方が幅広くなっています。接地タイプのプラグは、2本のブレードと第3の接地用接点を備えています。広いブレードと第3の接点は、安全のために用意されています。付属のプラグがコンセントに入らない場合、旧式のコンセント交換について電気技術者にご相談ください。
10. 電源コード、特にプラグは踏まれたり挟まれたりしないよう保護してください。本体から近くて便利な取り外し可能な場所を探します。コンセントが本体付近に位置するようにしてください。
11. 製造元の指定する付属品/アクセサリのみを使用してください。
12. カート、スタンド、三脚、ブラケットまたはテーブルは、メーカー指定か、または本体と共に販売されている物を使用してください。カート使用の場合、転倒による怪我を防止するため、カートと本体の組合せを移動するときに注意してください。

13. 長期間本体を使用しない場合、プラグを抜いてください。
14. サービスは資格のある人員にお問い合わせください。本体がどんな形であれ損害を受けたとき、例えば電源コードまたはプラグが損傷した場合、本体に液体がこぼれたり、物が落ちたりした場合、本体が雨または湿気にさらされた場合、あるいは本体が正常に動かないか、落下した場合などのいずれでも、サービスを受けることが必要です。

著作権情報

著作権 ViewSonic Corporation, 2017. 版権所有。
Macintosh 及び Power Macintosh はアップル社の登録商標です。
Microsoft、Windows 及び Windows ロゴは米国及び他諸国のマイクロソフト社の登録商標です。
ViewSonic 及び 3 羽の鳥のロゴは ViewSonic 社の登録商標です。
VESA は Video Electronics Standards Association の登録商標です。
DPMSおよびDDCはVESAの登録商標です。
PS/2、VGAおよびXGAは、International Business Machines Corporationの登録商標です。
免責事項：ViewSonic社は、記載事項に含まれる技術上または編集上の誤りや省略に関する責任は負いません。また、内容の実行や製品の使用から来る付随的、派生的な損害に関する責任は一切負いかねます。
継続的な製品改善のために、ViewSonic社は断りなく製品仕様を変更する権利を留保します。この文書の情報は無断で変更される場合があります。
ViewSonic社による事前の書面による承諾がない限り、いずれの目的でもこの文書をコピー、複製、転送することはできません。

製品登録

将来の製品ニーズを満たすため、そして、追加の製品情報が利用可能になった時にそれを受け取るため、ViewSonic 社ウェブサイト上でお住まいの地域のセクションを参照し、お使いの製品をオンラインで登録してください。
また、ViewSonic CD を使って、製品登録フォームを印刷することができます。記入後、ViewSonic オフィスに郵送するか、あるいは、ファックスしてください。登録フォームを探すには、「:\CD\Registration」ディレクトリを使用してください。
お使いの製品を登録することにより、今後カスタマサービスのニーズに対して準備することができます。
このユーザーガイドの「あなたのための記録」セクションを印刷し、情報を記入してください。
ディスプレイのシリアル番号は、ディスプレイの背面にあります。追加情報は、このガイドの「カスタマサポート」セクションを参照してください。

控え用

製品名：	LS620X ViewSonic DLP Projector
型番：	VS16942
文書番号：	LS620X_UG_JPN Rev. 1A 03-21-17
シリアル番号：	_____
購入日：	_____

製品寿命が切れたときの製品廃棄
この製品のランプは、人と環境に有害となる水銀を含んでいます。地元、県、および国の法律に基づき、注意して処分してください。
ViewSonicは環境を尊重し、グリーンの仕事、生活をお約束します。よりスマートな、よりグリーンのコンピューティングをサポートしてくださりありがとうございます。より詳細は、ViewSonicウェブサイトにアクセスしてご参照ください。
米国& カナダ: http://www.viewsonic.com/company/green/recycle-program/
ヨーロッパ: http://www.viewsoniceurope.com/eu/support/call-desk/
台湾: http://recycle.epa.gov.tw/recycle/index2.aspx

目次

安全にお使いいただくために 2

はじめに 5

プロジェクターの特長 5
パッケージ内容 5
制御装置および機能 6

プロジェクターの配置 10

設置場所の選択 10
投写サイズ 11

接続 13

コンピュータまたはモニターの接続..... 15
ビデオ入力源デバイスとの接続 ... 16
プロジェクターからサウンドを再生する 18

操作 19

プロジェクターの起動 19
メニューの使用方法 20
パスワード機能を使用する..... 21
入力信号の切り替え 23
投写画像の調整 24
詳細の拡大と検索 25
縦横比の選択 25
画像の最適化 26
プレゼンテーションタイマーの設定 30
画像を隠す 31
コントロールキーをロックする... 31
高地での操作 31
3D 機能の使用方法 32
LAN 環境でプロジェクターを操作する 33
スタンバイモードでプロジェクターを使う 40
サウンドの調整 40
プロジェクターをシャットダウンする 41
メニューの操作 42

メンテナンス 50

プロジェクターのお手入れ 50
ダストフィルタの使い方 51
光源について 52

トラブルシューティング 55

仕様 56

外形寸法 56
天井取り付け 56
IR 制御表 57
RS232 コマンド表 58
タイミングチャート 62
プロジェクターの仕様 66

著作権情報 67

安全にお使いいただくために

お使いのプロジェクターは、情報テクノロジーデバイスの最新の安全規格に適合するように設計され、テストされています。ただし、本装置を安全にご使用いただくために、このガイドおよび装置のマークに記載されている指示に従ってください。

安全にお使いいただくために

1. **プロジェクターを操作する前に、この取扱説明書を参照してください。**またいつでも参照できるように、手の届く場所に保管しておいてください。
2. **動作中は、プロジェクターのレンズを覗き込まないでください。**強い光線なので、視力障害を引き起こす恐れがあります。
3. **点検修理については、サポートセンターにお問い合わせください。**
4. プロジェクターの光源をオンにするときは、必ずレンズシャッターを開くか、レンズキャップを取り外してください。
5. 国によっては、電源電圧が不安定な場合もあります。プロジェクターは、電源が AC100 ～ 240V の電圧範囲のときに安全に作動するように設計されていますが、停電や ±10V のサージが発生すると故障する可能性があります。**電源の電圧が変動したり、電源供給が中断したりする地域では、電源安定器、サージプロテクタ、または無停電電源装置 (UPS) にプロジェクターを接続することをお薦めします。**
6. プロジェクターが作動しているときに投写レンズを物体で塞ぐと、それが過熱して変形したり、火災の原因となったりします。一時的に光源をオフにするには、プロジェクターかリモコンの BLANK ボタンを押してください。
7. 定格寿命より長く光源を使用しないでください。ごくまれですが、定格寿命より長く使用すると、光源が故障することがあります。
8. 光源部や電子部品の交換は、必ずプロジェクターの電源プラグを抜いてから行ってください。
9. 本製品は安定した場所に設置してください。本製品が落下して、破損する恐れがあります。
10. 本装置のキャビネットは開けないでください。内部には危険な電圧が流れており、触れると死に至る場合もあります。お客様ご自身で補修できるパーツは、専用の取り外し可能なカバーが付いた光源部分だけです。
    いかなる状況においても、これ以外のカバーをご自身で取り外そうとしないでください。修理はサポートセンターにお問い合わせください。
11. 次の場所に装置を置かないでください。
    - 通気が不十分な場所または密閉されている場所。壁との間隔を 50 cm 以上空けて、プロジェクターの周辺の風通しをよくしてください。
    - 窓を締め切った車内など、非常に高温になる場所。
    - 非常に湿度が高い場所、ほこりの多い場所、タバコの煙にさらされる場所。このような場所に置くと、光学部品が汚れ、プロジェクターの寿命が短くなり、画像が暗くなります。
    - 火災報知器に近い場所。
    - 周辺温度が 40°C/104°F を超える場所。
    - 高度が 3000 メートル（10000 フィート）を超える場所。

12. 通気孔をふさがないでください。通気孔がふさがれると、プロジェクターの内部が過熱し、火災が発生することがあります。
    - 本製品をブランケットなどの寝具類、または他の柔らかい物の上に置かないでください。
    - 本製品の上に布などをかぶせないでください。
    - プロジェクターの近くに可燃物を置かないでください。
13. 使用時は必ず装置を水平な平面上に置いてください。
    - 左右の傾きが 10 度、または前後の傾きが 15 度を超える状態で使用しないでください。完全に水平になっていない状態でプロジェクターを使用すると、光源が故障したり破損したりすることがあります。
14. 装置を縦向きにしないでください。縦向きにするとプロジェクターが倒れ、けがをしたり、プロジェクターが破損したりする恐れがあります。
15. 装置の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。装置が物理的に破損するだけでなく、事故やけがの原因になります。
16. プロジェクターの上または近くに液体を置かないでください。プロジェクター内部に液体がこぼれると故障の原因になります。プロジェクターが濡れてしまった場合は、コンセントからプラグを抜いて、お近くのサービスセンターに補修を依頼してください。
17. 本製品を天井に取り付けて、画像を反転投写することができます。

⚠ **天井に取り付ける場合は、専用の天井取り付けキットを使用し、しっかりと固定してください。**

18. プロジェクターが作動しているときには、通気孔から熱風と臭気を感じる場合があります。これは正常な状態であり、製品の欠陥によるものではありません。
19. 搬送や取り付け時にセキュリティバーを使用しないでください。市販の盗難防止用ケーブルをお使いください。
20. 注意
    この製品からは、光放射が放出される可能性があります。作動中の光源を見つめないでください。視覚障害を起こす可能性があります。
    リスクグループ 2

⚠ **注意**

- **この装置は接地されていなければなりません。**
- **本体を取り付ける際は、プラグが外してあるデバイスを固定配線に接続するか、または本体の近くにあり容易に手の届く場所にあるコンセントに接続してください。本体操作時にエラーが発生した場合は、コンセントから抜いたデバイスを操作して電源をオフにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。**

プロジェクター天井取り付けにおける安全のためのご注意

本プロジェクターを安心してお使いいただくために、ここに記載する注意をよくお読みになり指示にしたがってください。

プロジェクターを天井に取り付ける場合は、適合する天井取り付けキットをお使いになり、しっかりと確実に設置してください。

適合しない天井取り付けキットをお使いになると、ゲージやネジの長さが正確でないためプロジェクターが正しく固定されず落下してしまう恐れがあります。

プロジェクター天井取り付けキットは、プロジェクターを購入された販売店でお買い求めいただけます。また別途セキュリティ ケーブルをお求めになり、プロジェクターの盗難防止用ロックスロットと天井取り付けブラケットのベースをセキュリティケーブルでしっかりと繋いでおくことをお薦めします。このようにしておくと、万一天井取り付けブラケットが緩んでしまった場合にも、プロジェクターを補助的に支えることができます。

はじめに

プロジェクターの特長

このプロジェクターは高性能な光学エンジン投写技術とユーザーフレンドリーな設計を統合しており、高い信頼性と使いやすさを実現しています。

☞ 購入された製品によっては、ご使用いただけない機能があります。実際の性能は、モデルの性能により異なります。

- 省エネ機能を使うと、一定期間入力信号が検出されなければ光源の電力消費量を最大で 70% も節約できます。
- プレゼンテーション時間を管理するためのプレゼンテーションタイマー
- プロジェクターの状態をリモートコンピュータから管理できる LAN 設定
- 3D ディスプレイに対応
- カラーマネージメントにより色を自在に調整
- 省エネモードがオンのとき、電力消費量が 0.5W 以下
- あらかじめ定義された数種類の色から壁面の色を選択できる壁の色補正
- 直ちに信号検出ができるクイック自動検索機能
- 投写目的に応じて調整可能なカラーモード
- 最善の画質で表示するワンキー自動調整機能（アナログ信号のみ）
- 画像の歪みを補正するデジタルキーストーン補正
- データ / ビデオ表示を調整可能なカラー管理コントロール
- 10.7 億色を表示可能
- 言語を選択できるオンスクリーンディスプレイ (OSD) メニュー
- 消費電力を節約する標準 / 省電力モードの切り替えが可能
- コンポーネント HDTV との互換性 (YPbPr)

☞ **投写イメージの明るさは、周辺光の状態および選択した入力信号のコントラスト / 輝度設定によって変わります。また投写距離の影響を直接受けます。**

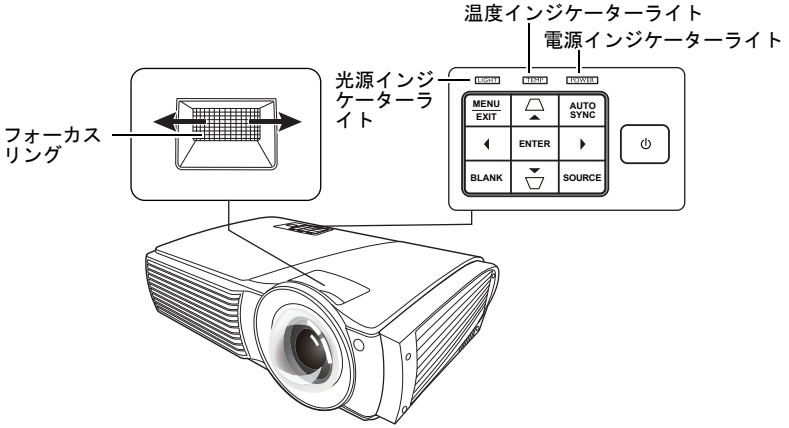
☞ **光源の明度は時間の経過に伴い暗くなります。また明度は光源の製造元の仕様によって異なります。これは異常ではなく、正常で予期される変化です。**

パッケージ内容

1. プロジェクター
2. 電源コード
3. 多言語ユーザーマニュアル CD
4. クイックスタートガイド
5. リモコンと電池
6. VGA ケーブル
7. ダスト フィルタ
8. VGA- コンポーネント アダプタ（別売り）

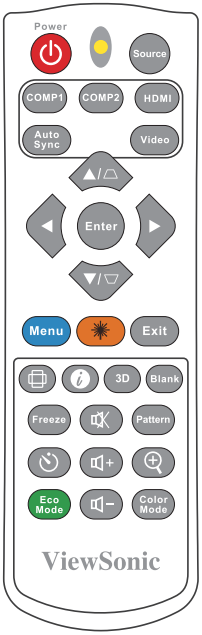
制御装置および機能

プロジェクター



- **⏻Power**
  スタンバイモードと電源オンの状態を切り替えます。
- **⏢ / ⏢（台形補正キー）**
  投写角度によって生じる画像の歪みを手動で修正します。
- **◀左 / ▶右 / ▲上 / ▼下**
  オンスクリーン ディスプレイ (OSD) メニューが有効なとき、メニューアイテムを選択し、調整を行うことができます。
- **Menu**
  オン スクリーン ディスプレイ (OSD) メニューをオンにします。
- **Exit**
  前の OSD メニューに戻ったり、終了してメニュー設定を保存します。
- **Enter**
  OSD メニューが有効なとき、選択した OSD メニューアイテムを有効にします。
- **Auto Sync**
  表示画像に最適なタイミングを自動的に決定します。
- **Source**
  ソース選択バーを表示します。

リモコン



- **⏻Power**
  スタンバイモードと電源オンの状態を切り替えます。
- **COMP1**
  COMPUTER 1 ポートから表示するソースを選択します。
- **COMP2**
  COMPUTER 2 ポートから表示するソースを選択します。
- **HDMI**
  HDMI または MHL ポートから表示するソースを選択します。
- **Auto Sync**
  表示画像に最適なタイミングを自動的に決定します。
- **Video**
  表示するビデオ入力源を選択します。
- **Source**
  ソース選択バーを表示します。
- **⏢ / ⏢（台形補正キー）**
  投写角度によって生じる画像の歪みを手動で修正します。
- **◀左 / ▶右 / ▲上 / ▼下**
  メニュー アイテムを選択し、調整を行います。
- **Enter**
  選択したオン スクリーン ディスプレイ (OSD) メニューのアイテムを実行します。
- **Menu**
  オン スクリーン ディスプレイ (OSD) メニューをオンにします。

- **Exit**
  メニュー設定を保存して終了します。
- ✷ **(レーザー)**
  プレゼンテーション時にレーザーライトを発します。
- **(縦横比)**
  縦横比選択バーを表示します。
- **(情報)**
  情報メニューを表示します。
- **3D**
  3D メニューを表示します。
- **Blank**
  スクリーンの画像を非表示にします。
- **Freeze**
  投写画像を静止または再開します。
- **Pattern**
  埋め込みテストパターンを表示します。
- **(ミュート)**
  プロジェクターの音声をオン / オフに切り替えます。
- **(音量 +)**
  プロジェクターの音量を上げます。
- **(音量 -)**
  プロジェクターの音量を下げます。
- **(プレゼンテーション タイマー)**
  プレゼンテーション タイマー設定メニューが表示されます。
- **(ズーム)**
  投写画像サイズを拡大または縮小するズームバーが表示されます。
- **Eco Mode**
  光源モードを選択します。
- **Color Mode**
  画像設定モードを選択します。

レーザーポインタの操作方法

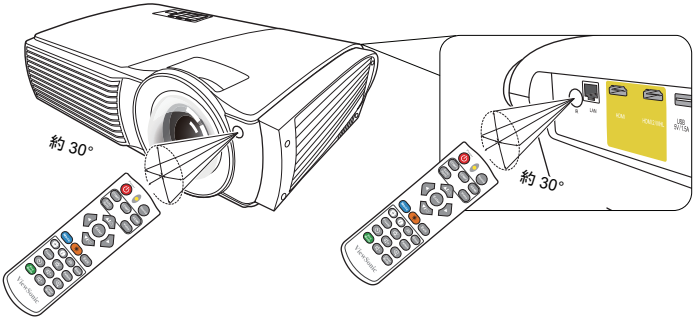
レーザーポインタは発表者がプレゼンテーションを行うときに使用するものです。ポインタを押すとカラー光線が発光します。レーザー光線は目に見えるものです。レーザー光線を続けて放射するには**レーザー**を押し続ける必要があります。

⚠ **絶対にレーザー光線ウィンドウを覗いたり、光線を人の目に向けて当てないでください。リモコンをご使用になる前に、裏面に記載されている警告を参照してください。**

レーザーポインタはおもちゃではありません。リモコンはお子様の手の届かない場所に保管しておいてください。

リモコンの有効範囲

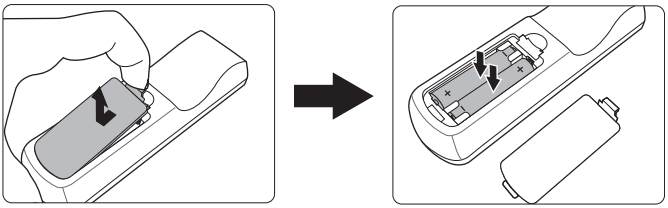
赤外線 (IR) リモコン センターの位置については、図をご覧ください。リモコンはプロジェクターの IR リモコン センサーに対して垂直に 30 度以内の角度に持たなければ、正しく作動しません。リモコンとセンサーの距離は、8 メートル（~ 26 フィート）以内でなければなりません。



リモコンとプロジェクターの IR センサーの間に障害物があると、赤外線光線が届かない場合があります。

リモコンの電池の交換

1. バッテリーカバーを開くには、リモコンを裏返してカバーのグリップを押し、図に示す方向にスライドさせてください。
2. 挿入されている電池を外し（必要な場合）、AAA（単 4）電池 2 個を極性に注意しながら挿入してください。プラス極 (+) はプラスに、マイナス極 (-) はマイナスの方向に挿入してください。
3. 再びカバーを元に戻してください。カチッという音がしたらカバーが閉まったことを意味しています。



注意

- **リモコンや電池は台所、浴室、サウナ、サンルーム、車内など高温多湿の場所に放置しないでください。**
- **電池メーカーが推奨するものと同じか、または同種の電池以外は使用しないでください。**
- **また、使用済みの電池は各自治体の回収規則にしたがって廃棄してください。**
- **電池を火の中に投げ込まないでください。爆発の危険性があります。**
- **電池が完全に消耗してしまったり、またはリモコンを長期間使用しないときには、漏電によりリモコンのコントロール部分が破損しないように電池は外しておいてください。**

プロジェクターの配置

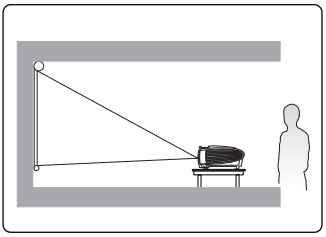
設置場所の選択

部屋のレイアウトやお好みで、どの設定で設置するか決めてください。設置する際は、スクリーンのサイズや位置、電源コンセントがある場所、プロジェクターとその他の装置の距離や位置などを考慮してください。

本機は次の設置状態で使うことができます。

1. 前面投写

プロジェクターをスクリーンの正面に床面近くに設置します。これが最も一般的な設定です。

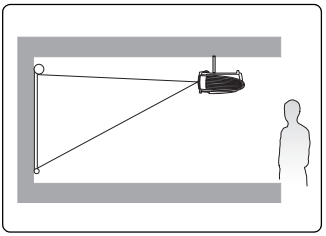


2. 天井前面投写

プロジェクターを上下逆さにスクリーン正面の天井に取り付けます。

この方法で設置する場合は、プロジェクター天井取り付けキットをご購入ください。

プロジェクターの電源を入れた後で、**システム** > **プロジェクタの投写位置**メニューで**天井前面投写**を設定します。

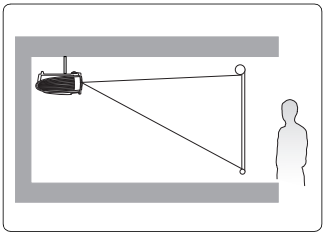


3. 天井リア投写

プロジェクターを上下逆さにスクリーン背面の天井に取り付けます。

背面投写スクリーンとプロジェクター天井取り付けキットが必要です。

プロジェクターの電源を入れた後で、**システム** > **プロジェクタの投写位置**メニューで**天井リア投写**を設定します。

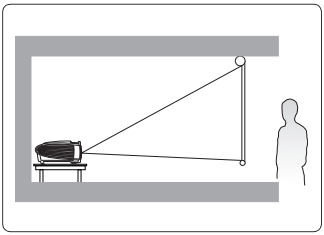


4. リア投写

プロジェクターをスクリーン背面、床面近くに設置します。

専用の背面投写スクリーンが必要です。

プロジェクターの電源を入れた後で、**システム** > **プロジェクタの投写位置**メニューで**リア投写**を設定します。



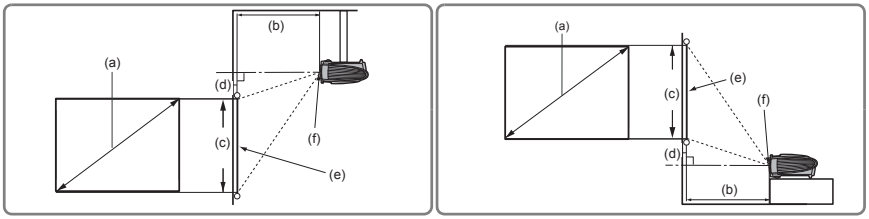
投写サイズ

☞ 以下に説明する「画面」とは、スクリーン表面とサポート構造から構成される投写画面のことです。

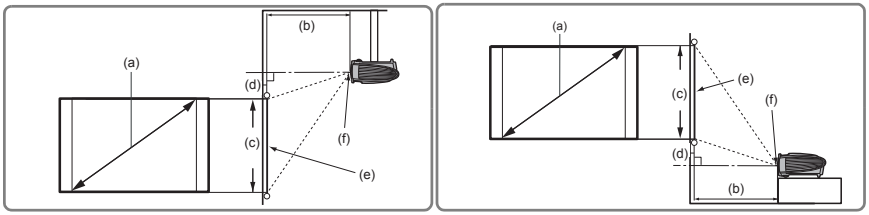
☞ 本プロジェクターのネイティブ解像度については、66 ページの「プロジェクターの仕様」を参照してください。

ネイティブ縦横比 4:3 のモデル用

- 4:3 スクリーンの 4:3 画像



- 16:10 スクリーンの 4:3 画像



(e)：スクリーン (f)：レンズ中央

(a) スクリーンサイズ [インチ (cm)]		4:3 スクリーンの 4:3 画像							
		(b) 投写距離 [m（インチ）]				(c) 画像の高さ [cm（インチ）]		(d) 縦オフセット [cm（インチ）]	
		最小		最大				最小	最大
60	(152)	0.74	(29)	0.74	(29)	91.44	(36)	13.72 (5.4)	13.72 (5.4)
70	(178)	0.86	(34)	0.86	(34)	106.68	(42)	16.00 (6.3)	16.00 (6.3)
80	(203)	0.98	(39)	0.98	(39)	121.92	(48)	18.29 (7.2)	18.29 (7.2)
90	(229)	1.11	(44)	1.11	(44)	137.16	(54)	20.57 (8.1)	20.57 (8.1)
100	(254)	1.23	(48)	1.23	(48)	152.40	(60)	22.86 (9.0)	22.86 (9.0)
110	(279)	1.35	(53)	1.35	(53)	167.64	(66)	25.15 (9.9)	25.15 (9.9)
120	(305)	1.48	(58)	1.48	(58)	182.88	(72)	27.43 (10.8)	27.43 (10.8)
130	(330)	1.60	(63)	1.60	(63)	198.12	(78)	29.72 (11.7)	29.72 (11.7)
140	(356)	1.72	(68)	1.72	(68)	213.36	(84)	32.00 (12.6)	32.00 (12.6)
150	(381)	1.85	(73)	1.85	(73)	228.60	(90)	34.29 (13.5)	34.29 (13.5)

(a) スクリーンサイズ [インチ (cm)]		16:10 スクリーンの 4:3 画像							
		(b) 投写距離 [m（インチ）]				(c) 画像の高さ [cm（インチ）]		(d) 縦オフセット [cm（インチ）]	
		最小		最大				最小	最大
60	(152)	0.65	(26)	0.65	(26)	80.77	(32)	12.12 (4.8)	12.12 (4.8)
70	(178)	0.76	(30)	0.76	(30)	94.23	(37)	14.14 (5.6)	14.14 (5.6)
80	(203)	0.87	(34)	0.87	(34)	107.70	(42)	16.15 (6.4)	16.15 (6.4)
90	(229)	0.98	(39)	0.98	(39)	121.16	(48)	18.17 (7.2)	18.17 (7.2)
100	(254)	1.09	(43)	1.09	(43)	134.62	(53)	20.19 (7.9)	20.19 (7.9)
110	(279)	1.20	(47)	1.20	(47)	148.08	(58)	22.21 (8.7)	22.21 (8.7)
120	(305)	1.30	(51)	1.30	(51)	161.54	(64)	24.23 (9.5)	24.23 (9.5)
130	(330)	1.41	(56)	1.41	(56)	175.01	(69)	26.25 (10.3)	26.25 (10.3)
140	(356)	1.52	(60)	1.52	(60)	188.47	(74)	28.27 (11.1)	28.27 (11.1)
150	(381)	1.63	(64)	1.63	(64)	201.93	(79)	30.29 (11.9)	30.29 (11.9)

光学部品の偏差のため、これらの数字には 3% の公差があります。プロジェクターを一定場所に固定する予定であれば、設置を行う前に実際にプロジェクターを使って投写サイズと距離を測っておかれるようお薦めします。このように準備しておくことによって、プロジェクターを最適な位置に固定することができます。

接続

信号ソースをプロジェクターに接続する際には、次の点を確認してください。

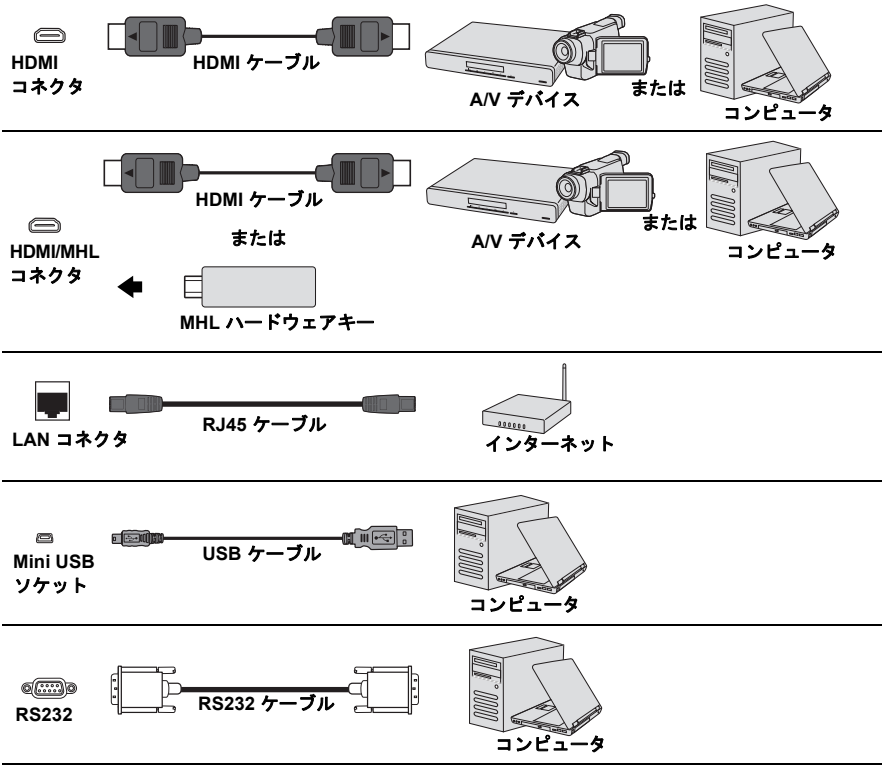
1. 接続を行う前にすべてのデバイスの電源をオフにします。
2. 各ソースに正しい信号ケーブルを使用します。
3. ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認します。

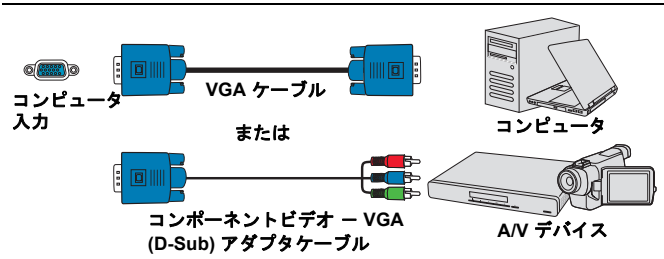
下に示す接続図のケーブルは、本機に付属していません。（詳細は、5 ページの「パッケージ内容」を参照してください。）ケーブルはお近くの電気店でお求めください。

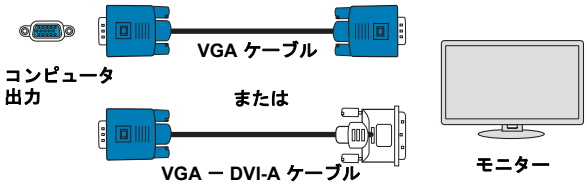
下の接続図は参照用です。プロジェクターにある接続ジャックは、プロジェクターのモデル毎に異なります。

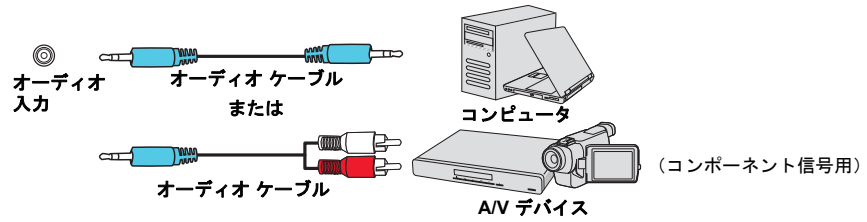
詳しい接続方法については、15-18 ページをご覧ください。

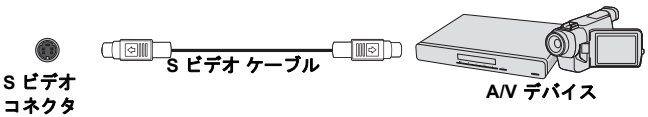
以下は、プロジェクターに付いている各コネクタの接続方法をまとめたものです。

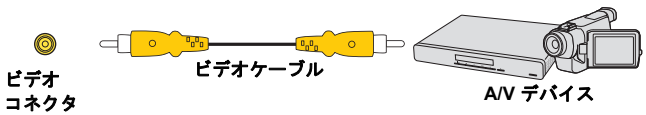


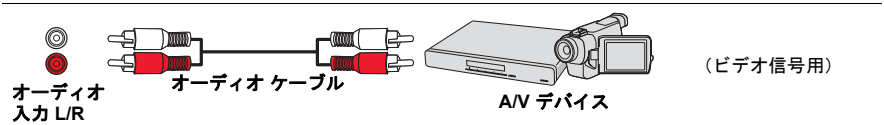

コンピュータ
入力
VGA ケーブル
または
コンポーネントビデオ ー VGA
(D-Sub) アダプタケーブル
コンピュータ
A/V デバイス

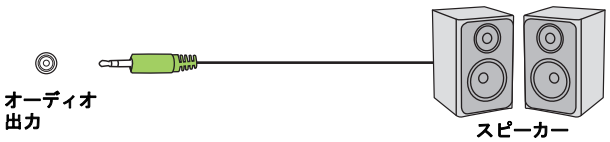

コンピュータ
出力
VGA ケーブル
または
VGA ー DVI-A ケーブル
モニター

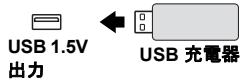

オーディオ
入力
オーディオ ケーブル
または
オーディオ ケーブル
コンピュータ
A/V デバイス
（コンポーネント信号用）

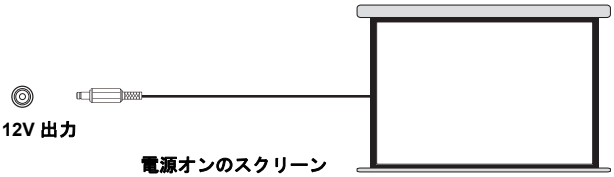

S ビデオ
コネクタ
S ビデオ ケーブル
A/V デバイス


ビデオ
コネクタ
ビデオケーブル
A/V デバイス


オーディオ
入力 L/R
オーディオ ケーブル
A/V デバイス
（ビデオ信号用）


オーディオ
出力
スピーカー


USB 1.5V
出力
USB 充電器



コンピュータまたはモニターの接続

コンピュータの接続

1. 付属の VGA ケーブルをコンピュータの D-Sub 出力ソケットに繋ぎます。
2. VGA ケーブルのもう片端をプロジェクターの **COMPUTER 1** または **COMPUTER 2** 信号入力ソケットに接続します。

☞ **多くのノートブックでは、プロジェクターを接続すると外付けビデオポートはオンになりません。通常は「FN」+「F3」や CRT/LCD の組み合わせによって、外付けディスプレイをオン / オフにすることができます。CRT/LCD 機能キーまたは、ノートブック上でモニター記号が示された機能キーの場所を確認します。FN と記号が記された機能キーを同時に押します。ノートブックのキーの組み合わせについては、ノートブックの説明書を参照してください。**

モニターの接続

プレゼンテーションをモニターとスクリーンの両方でクローズアップしたい場合は、次の図にしたがって VGA ケーブルを使ってプロジェクターの **COMPUTER OUT** 信号出力ソケットを外部モニターに接続してください。

1. 15 ページの「コンピュータの接続」の説明にしたがって、プロジェクターをコンピュータに接続します。
2. 適切な VGA ケーブル（1 本のみ付属）の片端をビデオ モニターの D-Sub 入力ソケットに接続します。
   または、モニターに DVI 入力ソケットが付いている場合は、VGA ー DVI-A ケーブルの DVI 側をビデオ モニターの DVI 入力ソケットに接続します。
3. ケーブルのもう片端をプロジェクターの **COMPUTER OUT** ソケットに接続します。

☞ **COMPUTER OUT 出力は、プロジェクターがスタンバイモードのときに COMPUTER 1 接続を行わなければ機能しません。この接続方式を使用するには、システム設定：詳細 > スタンバイ設定メニューで VGA 出力します機能を有効にします。**

ビデオ入力源デバイスとの接続

プロジェクターは、次のいずれかの出力ソケットを備えた各種ビデオ入力源に接続できます。

- HDMI
- コンポーネントビデオ
- S ビデオ
- ビデオ（コンポジット）

いずれかの方法でプロジェクターとビデオ入力源デバイスを接続してください。ただし、方法によってビデオ品質が異なります。接続方法は、プロジェクターとビデオ入力源デバイスの両方に搭載されている端末に合ったものを選択してください。

最高の画質

最高品質を実現するビデオ接続方式は HDMI です。ソース機器に HDMI ソケットが装備されている場合は、未圧縮のデジタルビデオ品質をお楽しみいただけます。

プロジェクターを HDMI 入力源デバイスに接続する方法、およびその他の説明については、17 ページの「HDMI デバイスの接続」を参照してください。

HDMI ソースを使用できない場合は、次に品質の高いビデオ信号はコンポーネント ビデオです（コンポジット ビデオと間違えないようにしてください）。デジタル TV チューナーと DVD プレーヤーは、コンポーネント ビデオをネイティブで出力します。デバイスにこれらがある場合は、これが（コンポジット）ビデオに合った接続方式となります。

プロジェクターをコンポーネント ビデオ機器に接続する方法については、17 ページの「コンポーネント ビデオ入力源デバイスとの接続」を参照してください。

標準の画質

S ビデオ方式は、標準のコンポジット ビデオよりも良好な品質のアナログ ビデオを出力します。ビデオ入力源デバイスにコンポジット ビデオ端末と S ビデオ出力端末の両方がある場合は、S ビデオを選択してください。

プロジェクターを S ビデオ機器に接続する方法については、17 ページの「S ビデオソースデバイスとの接続」を参照してください。

最低画質

コンポジット ビデオはアナログ ビデオであり許容可能なレベルの画質ではありますが、プロジェクターが発揮できる最高画質よりも品質が劣ります。ここで紹介する方法の中では最低の画質となります。

プロジェクターをコンポジット ビデオ機器に接続する方法については、18 ページの「コンポジット ビデオソースデバイスとの接続」を参照してください。

オーディオ接続

プレゼンテーションでプロジェクターのスピーカーを使用し、さらに別にアンプスピーカーをプロジェクターのオーディオ出力ソケットに接続することも可能です。オーディオ出力は、プロジェクターの音量とミュート設定で制御します。

HDMI デバイスの接続

プロジェクターと HDMI デバイスを接続するには、HDMI ケーブルをお使いください。

1. HDMI ケーブルをビデオデバイスの HDMI 出力ポートに接続します。
2. ケーブルのもう片端をプロジェクターの **HDMI** 入力ポートに接続します。

☞ **プロジェクターの HDMI 入力を介してプロジェクターと DVD プレーヤーを接続する場合、投写画像の色が正しく表示されない場合がありますが、その場合はカラースペースを YUV に変更してください。詳細は、23 ページの「HDMI 入力設定の変更」を参照してください。**

コンポーネント ビデオ入力源デバイスとの接続

使用可能なコンポーネント ビデオ出力ソケットがあるか、ビデオ入力源デバイスを確認してください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法でデバイスを接続してください。

1. VGA (D-Sub)- コンポーネント アダプタ ケーブルの 3 RCA タイプのコネクタが付いた方をビデオ入力源デバイスのコンポーネント ビデオ出力ソケットに接続します。プラグとソケットの色を合わせてください（緑は緑と、青は青と、赤は赤と）。
2. VGA (D-Sub)- コンポーネント アダプタ ケーブル（D-Sub タイプコネクタ付き）をプロジェクターの **COMPUTER 1** または **COMPUTER 2** ソケットに接続します。

☞ **正しいビデオソースが選択されているにもかかわらず、電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されない場合は、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。**

☞

VGA- コンポーネント アダプタ
（ViewSonic P/N：CB-00008906）

S ビデオソースデバイスとの接続

使用可能な S ビデオ出力ソケットがあるか、ビデオソースデバイスを確認してください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法でデバイスを接続してください。

1. S ビデオケーブルのビデオソースデバイスの S ビデオ出力ソケットに接続します。
2. S ビデオ ケーブルのもう片端をプロジェクターの **S-VIDEO** ソケットに繋ぎます。

☞ **正しいビデオソースが選択されているにもかかわらず、電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されない場合は、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。**

☞ **コンポーネントビデオ接続方式によりプロジェクターとビデオソースデバイスをすでに接続してある場合は、S ビデオ接続方式でこのデバイスを接続すると不要に 2 つ目の接続が生じ、画質が悪くなるため、このデバイスを接続する必要はありません。詳細は、16 ページの「ビデオ入力源デバイスとの接続」を参照してください。**

コンポジット ビデオソースデバイスとの接続

使用可能なコンポジット ビデオ出力ソケットがあるか、ビデオソースデバイスを確認してください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法でデバイスを接続してください。

1. ビデオケーブルのビデオソースデバイスのコンポジット ビデオ出力ソケットに接続します。
2. ビデオ ケーブルのもう片端をプロジェクターの **VIDEO** ソケットに繋ぎます。

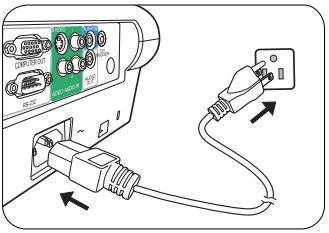
☞ **正しいビデオソースが選択されているにもかかわらず、電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されない場合は、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。**

☞ **コンポーネント ビデオ入力を使用できない場合にのみ、コンポジット ビデオ接続でこのデバイスを接続してください。詳細は、16 ページの「ビデオ入力源デバイスとの接続」を参照してください。**

プロジェクターからサウンドを再生する

プレゼンテーションでプロジェクターのスピーカーを使用し、さらに別にアンプスピーカーをプロジェクターの **AUDIO OUT** ソケットに接続することも可能です。

プロジェクターの起動



1. 電源コードをプロジェクターとコンセントに差し込みます。コンセントのスイッチをオンにします（該当する場合）。
2. ⏻**Power** を押してプロジェクターを起動します。光源が点灯するとすぐに「電源オンの音」が聞こえます。プロジェクターがオンの間中、**電源インジケーターライト**が青く点灯します。
   必要であれば、フォーカスリングを使って画像の鮮明さを調整してください。

☞ **プロジェクターが前回使用したときから完全に冷め切っていない場合は、光源に電力が供給されるまで約 90 秒間冷却ファンが作動します。**

☞ **光源の寿命を保つためには、プロジェクターをオンにした後、最低でも 5 分間は電源を切らないでください。**

☞ **通知音を切る方法については、40 ページの「電源オン / オフ音をオフにする」を参照してください。**

3. 初めてプロジェクターを起動する場合は、画面の指示に従って OSD 言語を選択してください。
4. 接続されているすべての機器の電源をオンにします。
5. プロジェクターは入力信号の検索を開始します。スキャンされている入力信号がスクリーン左上隅に表示されます。プロジェクターが有効な信号を検出しない場合は、入力信号が検出されるまで「**信号なし**」のメッセージが表示され続けます。
   入力信号を選択するには、**Source** を押してください。詳細は、23 ページの「入力信号の切り替え」を参照してください。

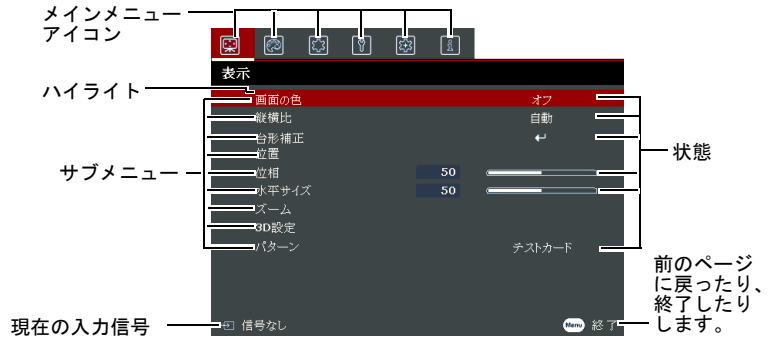
☞ **入力信号の周波数 / 解像度がプロジェクターの動作範囲を超えた場合、「対応範囲外」というメッセージが消画スクリーンに表示されます。プロジェクターの解像度に合った入力信号に変えるか、入力信号を低い値に設定し直してください。詳細は、62 ページの「タイミングチャート」を参照してください。**

メニューの使用方法

このプロジェクターは、オン スクリーン ディスプレイ (OSD) メニューを備えており、各種の調整や設定が行えます。

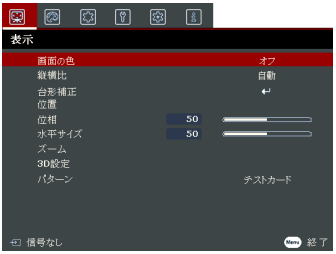
下の OSD スクリーンショットは参照用であり、実際の仕様とは異なる場合があります。

以下に OSD メニューの概要を紹介します。

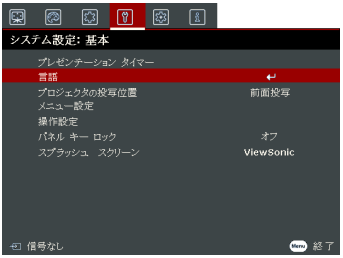


OSD メニューを使用するには、先に言語を選択します。

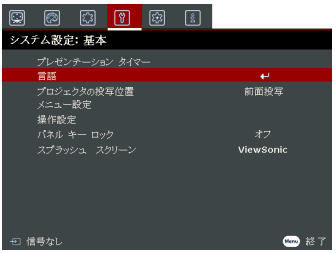
1. **Menu** を押して OSD メニューをオンにします。



2. ◀/▶ を使って**システム設定：基本**メニューを選択します。



3. ▼ を押して**言語**を選択し、次に **Enter** を押してください。



4. ◀/▲/▼/▶ を使って言語を選択します。
5. **Enter** を押してメインメニューに戻り、**Menu** を押すと OSD メニューが終了します。

パスワード機能を使用する

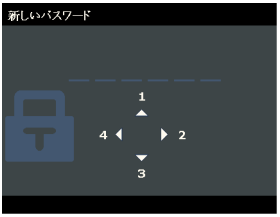
セキュリティのため、および許可されていないユーザーがプロジェクターを勝手に使用できないように、このプロジェクターにはパスワードを設定することができます。パスワードはオン スクリーン ディスプレイ (OSD) メニューで設定します。OSD メニューの操作については、20 ページの「メニューの使用方法」をご参照ください。

パスワード機能を有効にしたにも関わらず、パスワードを忘れてしまうと面倒なことになります。パスワードは書き留めておいて、安全な場所に保管しておいてください。

パスワードの設定

一度パスワードを設定して電源オンロックを有効にすると、プロジェクターを起動するたびに正しいパスワードを入力しなければプロジェクターを使用することはできなくなります。

1. OSD メニューを開き、**システム設定：詳細** > **セキュリティ設定** メニューを選択してください。
2. **Enter** を押すと、**セキュリティ設定**ページが開きます。
3. **セキュリティ設定の変更**を選択し、**Enter** を押します。
4. 右図に示す通り、4 つの矢印キー（◀、▲、▼、▶）はそれぞれ 4 つの数字（1、2、3、4）を示しています。矢印キーを使って、6 桁のパスワードを入力して設定します。
5. 新しいパスワードを再度入力して新しいパスワードを確認してください。
   パスワードの設定が完了すると、OSD メニューは**セキュリティ設定**ページに戻ります。
6. **電源ロック**機能を有効にするには、▲/▼ を押して、**電源ロック**を選択し、次に ◀/▶ を押して**オン**を選択してください。



パスワードを忘れた場合

パスワード機能を有効にすると、プロジェクターをオンにするたびに 6 桁のパスワードを入力するよう要求されます。間違ったパスワードを入力すると、右図のようなパスワードエラーメッセージが 5 秒間表示され、次に**「パスワードの入力」**というメッセージが表示されます。別の 6 桁のパスワード上を押してもう一度やり直してください。またはパスワード忘れてしまい、さらに説明書にパスワードを記録しておかなかった場合は、パスワードの呼び戻し手続きを行ってください。詳細は、22 ページの「パスワードの呼び戻しを行うには」を参照してください。

パスワード入力を続けて 5 回間違えると、プロジェクターは間もなく自動的にシャットダウンします。

パスワードの呼び戻しを行うには

1. リモコンの **Auto Sync** を 3 秒間押します。スクリーン上にコード化された番号が表示されます。
2. 番号を書き留めて、プロジェクターをオフにしてください。
3. 番号をデコードするには、お近くのサービスセンターにお問い合わせください。お客様がこのプロジェクターを使用できる正当なユーザーであることを確認するために、購入を証明する文書の提示を求められる場合があります。

☞ **上記スクリーンショットの「XXX」に相当する番号は、プロジェクターモデル毎に異なります。**

パスワードの変更

1. OSD メニューを開き、**システム設定**：**詳細** > **セキュリティ設定** > **パスワードの変更**メニューを選択してください。
2. **Enter** を押します。すると**「現在のパスワード」**というメッセージが表示されます。
3. 古いパスワードを入力してください。
   - パスワードが正しければ、**「新しいパスワード」**というメッセージが表示されます。
   - パスワードが間違っていれば、パスワードエラーメッセージが 5 秒間表示され、**「現在のパスワード」**というメッセージが表示されますので、もう一度パスワードを正しく入力してください。**Exit** を押してキャンセルするか、別のパスワードをお試しください。
4. 新しいパスワードを入力します。
5. 新しいパスワードを再度入力して新しいパスワードを確認してください。
6. プロジェクターに新しいパスワードが割り当てられました。次回プロジェクターを起動したときには、必ず新しいパスワードを入力してください。
7. OSD メニューを終了するには、**Exit** を押します。

☞ **入力した数字は画面上にはアスタリスク (*) で表示されます。パスワードは書き留めておいて、安全な場所に保管しておいてください。**

パスワード機能を無効にする

1. OSD メニューを開き、**システム設定**：**詳細** > **セキュリティ設定** > **電源ロック**メニューを選択してください。
2. ◀/▶ を押して**オフ**を選択します。
3. すると**「パスワードの入力」**というメッセージが表示されます。現在のパスワードを入力してください。
   - パスワードが正しく入力された場合は、OSD メニューの**セキュリティ設定**ページで**電源ロック**の欄が**「オフ」**の状態で表示されます。次回プロジェクターをオンにするときには、パスワードを入力する必要はありません。

- パスワードが間違っていれば、パスワードエラーメッセージが 5 秒間表示され、**「パスワードの入力」**というメッセージが表示されますので、もう一度パスワードを正しく入力してください。**Exit** を押してキャンセルするか、別のパスワードをお試しください。

☞ **パスワード機能を無効にしても、再びパスワード機能を有効にするときに古いパスワードを入力するよう要求されますので、古いパスワードは忘れないように記録し保管しておいてください。**

入力信号の切り替え

プロジェクターは同時に複数の装置に接続することができます。ただし一度に表示できる装置は 1 台です。

プロジェクターに自動的に信号を検出させるためには、**ソース**メニューで**クイック自動検索**機能が**オン**になっていることを確認してください。

また、リモコンのソース選択キーを押して信号を手動で選択したり、使用可能な入力信号を切り替えることもできます。

1. **Source** を押します。ソース選択バーが表示されます。
2. 任意の信号が選択されるまで ▲/▼ を押し、次に **Enter** を押します。
   信号が検出されたら、選択したソース情報が画面に数秒間表示されます。プロジェクターに複数のデバイスが接続されている場合は、ステップ 1-2 を繰り返すと別の信号を検出することができます。

☞ **本プロジェクターのネイティブ解像度については、66 ページの「プロジェクターの仕様」を参照してください。最高の画質にするには、この解像度で出力できる入力信号を選択、使用する必要があります。これ以外の解像度を使用すると、「縦横比」の設定によってプロジェクターが画像の縦横比を変更してしまうため、画像が歪んだり、鮮明さが失われたりします。詳細は、25 ページの「縦横比の選択」を参照してください。**

HDMI 入力設定の変更

プロジェクターの **HDMI** 入力を介してプロジェクターとデバイス（DVD や Blu-ray など）を接続するような場合、プロジェクターの画像の色が正しく表示されないことがあります。カラースペースを出力機器のカラースペース設定に合ったものに変更してください。

これを実行するには：

1. OSD メニューを開き、**ソース** > **カラースペース反転** メニューを選択してください。
2. 接続した出力デバイスのカラースペース設定に基づいて、◀/▶ を押して適切なカラースペースを選択します。
   - **自動**：入力信号のカラースペース設定が自動的に検出されるようにプロジェクターを設定します。
   - **RGB 制限範囲**：カラースペースを RGB、HDMI カラー範囲を 15 - 235 に設定します。
   - **RGB 全範囲**：カラースペースを RGB、HDMI カラー範囲を 0 - 255 に設定します。
   - **YUV 制限範囲**：カラースペースを YUV、HDMI カラー範囲を 15 - 235 に設定します。
   - **YUV 全範囲**：カラースペースを YUV、HDMI カラー範囲を 0 - 255 に設定します。

この機能は HDMI 入力ポート使用中にしか有効になりません。

カラースペースと HDMI 範囲の設定については、機器の取り扱い説明書をご覧ください。

投写画像の調整

投写角度の調整

プロジェクターが床に対して水平な場所に設置されていない場合、またはスクリーンとプロジェクターが垂直に設置されていない場合は、投写画像が台形になります。このような問題を補正する方法については、24 ページの「キーストーンの補正」を参照してください。

光源が点灯しているときには絶対にレンズを覗かないでください。光源からは強い光が発されており、目を傷つける場合があります。

画像の自動調整

場合によっては、画質を最適化する必要が生じることもあります。これを実行するには、リモコンの **Auto Sync** を押します。組み込みのインテリジェント自動調整機能により周波数およびクロックの値が再調整され、5 秒以内に最適な画質が得られます。

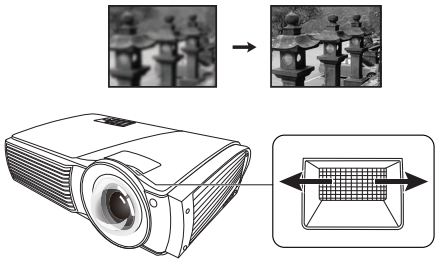
下図のように、現在のソース情報がスクリーンの左上隅に 3 秒間表示されます。

自動調整が機能している間は、ViewSonic ロゴが表示されます。

この機能は PC D-Sub 入力信号（アナログ RGB）が選択されている場合にしか使用できません。

画像の明瞭さの微調整

フォーカスリングを回して焦点を合わせます。



キーストーンの補正

キーストーンとは、まっすぐに投写されなかったために、投写画像の上部または下部のいずれかが明らかに長くなってしまう状態のことです。

これを修正するには、プロジェクターの高さを調整するほか、次のいずれかの手順に従って手動で修正する必要があります。

- プロジェクターかリモコンを使う

1. ⏢ / ⏥ を押すと、キーストーン補正ページが表示されます。
2. ⏢ を押すと、画像の上部のキーストーンが補正されます。⏥ を押すと、画像の下部のキーストーンが補正されます。

⏥ / ▼ を押します。　　**⏢ / ▲ を押します。**

- OSD メニューの使用方法

1. OSD メニューを開き、**表示** > **台形補正** メニューを選択してください。
2. **Enter** を押します。
3. 画像の上部の歪みを調整するには ⏢ を押します。画像の下部の歪みを調整するには、⏢ を押します。

詳細の拡大と検索

投写画像で詳細を見つけ出したい場合は、画像を拡大してください。矢印キーを使用すると、画像をナビゲートできます。

- リモコンの使用方法

1. リモコンの 🔍 押すとズームバーが表示されます。
2. ▲ を繰り返し押すと、画像を任意のサイズに拡大できます。
3. 画像をナビゲートするには、**Enter** を押してパン モードに切り替えて、矢印キー（◀、▲、▼、▶）を使用します。
4. 画像のサイズを縮小するには、リモコンの **Auto Sync** を押すと元のサイズに戻ります。または、**Enter** を押してズームイン / アウト機能に戻り、▼ を押します。

- OSD メニューの使用方法

1. OSD メニューを開き、**表示** > **ズーム**メニューを選択してください。
2. **Enter** を押します。するとズームバーが表示されます。
3. 先のリモコンの使用方法セクションの 2-4 ステップを行います。

☞ **この調整可能な範囲は、縦横比によって変わります。**

☞ **画像は拡大しなければナビゲートできません。詳細を検索しながら、画像をさらに拡大することができます。**

縦横比の選択

「縦横比と」は、イメージの幅と高さの比率のことです。

デジタル信号処理能力が進化するにつれて、このプロジェクターのようなデジタルディスプレイ装置はイメージ出力をイメージ入力信号とは異なるアスペクトにまで拡張できるようになりました。

投写イメージの比率を変更する（ソースの縦横比に関係なく）:

1. OSD メニューを開き、**表示** > **縦横比**メニューを選択してください。
2. **Enter** を押します。
3. ▲/▼ を押して、ビデオ信号のフォーマットとディスプレイの条件に合わせて適切な縦横比を選択してください。

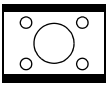
縦横比について

1. **自動**：イメージをプロジェクター本来の解像度の水平幅に合わせて表示します。これは入力イメージが 4:3 でも 16:9 でもなく、画像の縦横比を変えずにスクリーンを有効に活用したいときに便利です。
2. **リアル**：イメージはその本来の解像度で投写され、表示エリアに合わせてリサイズされます。低解像度の入力信号では、投写イメージはフルスクリーンサイズにリサイズした場合よりも小さいサイズで表示されます。

3. **4:3**：スクリーンの中央が 4:3 の縦横比になるようにイメージを調整します。これは縦横比を変更せずにすむため、ある種のコンピュータモニター、標準精度の TV、縦横比 4:3 の DVD ムービーなどの 4:3 イメージに適しています。
4. **16:9**：スクリーンの中央が 16:9 の縦横比になるようにイメージを調整します。この設定は、縦横比を変更する必要がないため高精度 TV など、すでに縦横比が 16:9 になっているイメージに適しています。
5. **16:10**：スクリーンの中央が 16:10 の縦横比になるようにイメージを調整します。これは縦横比を変更する必要のない、縦横比 16:10 の画像に適しています。

下の表は、異なるネイティブ解像度を持つプロジェクターの縦横比の設定の効果を一覧にしたものです。本プロジェクターのネイティブ解像度については、66 ページの「プロジェクターの仕様」を参照してください。

☞ **下の図では黒い部分が無効になったエリアで、白い部分が有効なエリアです。未使用の黒いエリアには OSD メニューを表示することができます。**

縦横比の設定	プロジェクターのネイティブの縦横比が ...
	4:3
自動	
4:3	
16:9	
16:10	

画像の最適化

カラーモードの選択

このプロジェクターは操作環境や入力信号の画像タイプによって自由に選択できるように、いくつかのカラーモードが設定されています。

用途に合った操作モードを選択するには、次のいずれかの手順にしたがってください。

- **Color Mode** を押して選択バーを表示し、▲/▼ を押してモードを選択します。または、**Color Mode** を繰り返し押してください。
- **ピクチャ** > **カラーモード**メニューを開き、**Enter** を押します。▲/▼ を押して、モードを選択します。

信号タイプ毎のピクチャモード

信号タイプ毎のピクチャモードは、次の表のとおりです。

1. **明るくモード**：画像の輝度を最大限明るくします。このモードは、輝度を最高に明るくする必要がある環境に適しています（プロジェクターを明るい部屋で使用する場合など）。
2. **ダイナミックモード**：日中、PC やノートブックのカラーリングに合わせてプレゼンテーションを行うためのモードです。また、投写コンテンツに応じてダイナミック PC 機能を使って画質を最適化します。
3. **標準モード**：日中、PC やノートブックのカラーリングに合わせてプレゼンテーションを行うためのモードです。
4. **sRGB モード**：高輝度と忠実な色再現を切り替えます。
5. **ムービーモード**：このモードはやや暗めの部屋で、PC 入力を介してデジタルカメラや DV からカラームービーやビデオクリップを再生するのに適しています。
6. **3D モード**：3D 画像および 3D ビデオ クリップを再生するのに適しています。

画面の色の使い方

白以外でペイントされた壁に画像を投写するような場合は、入力源の色と投写画像の色の違いを補正するために**画面の色**機能を使うことができます。

この機能を使用するには、**表示** > **画面の色**メニューに進み、**Enter** を押します。▲/▼ を押して投写面の色に近い色を選択します。あらかじめ調整された色には次のようなものがあります：**黄色**、**グリーンボード**、**黒板**。これらの設定の効果は、モデル毎に異なります。

☞ **この機能はコンピュータ入力信号が選択されている場合にしか使用できません。**

ユーザーモードの画質の微調整

検出した信号タイプに応じて、いつくかの機能をユーザー定義することができます。必要に応じてこれらの機能を調整してください。

輝度の調整

ピクチャ > **輝度**メニューを開き、**Enter** を押します。

値を高くするほどイメージの輝度が増加します。設定値が小さいほどイメージは暗くなります。このコントロールを調整すると、イメージの黒い領域が黒く表示されるため、暗い領域の詳細が見えるようになります。

コントラストの調整

ピクチャ > **コントラスト**メニューを開き、**Enter** を押します。

値を高くするほどコントラストが増加します。選択した入力と表示環境に合わせて**輝度**を調整した後、これを使って白のピークレベルを設定することができます。

色の調整

ピクチャ > **色**メニューを開き、◀/▶ を押します。

設定を下げると、彩度が低くなります。逆に値を上げすぎると、画像の色が不自然に強調されてしまいます。

☞ **この機能は、入力信号が S ビデオ、ビデオ、YPbPr、YCbCr の場合にのみ使用できます。**

色調の調整

ピクチャ > **色調** メニューを開き、◀ /▶ を押します。

値を高くするほど緑がかった画像になります。値を低くするほど赤味がかった画像になります。

☞ **この機能は、入力信号が S ビデオ、ビデオ、YPbPr、YCbCr の場合にのみ使用できます。**

シャープネスの調整

ピクチャ > **シャープネス** メニューを開き、◀ /▶ を押します。

値を高くするほど画像がシャープになります。値を低くするほど画像が柔らかくなります。

☞ **この機能は、入力信号が S ビデオ、ビデオ、YPbPr、YCbCr の場合にのみ使用できます。**

Brilliant Color の調整

ピクチャ > **Brilliant Color** メニューを開き、◀ /▶ を押します。

この機能は新しい色処理アルゴリズムとシステムレベルでの向上を利用して、投写映像によりリアルで鮮やかな色を提供すると共に、明るさをより高めることができます。ビデオや自然のシーンでよく見られる中間調イメージであれば、50% 以上も輝度を上げることができますので、リアルで自然な色を再現することが可能です。高画質が必要な場合は、必要に応じてレベルを調整してください。そうでない場合は、**オフ**を選択してください。

色温度の選択

ピクチャ > **色温度**メニューを開き、**Enter** を押します。

色温度設定のオプションは、選択した信号タイプによって異なります。

1. **冷**：最高の色温度のとき、**冷**は他の設定よりも画像をより青白く再現します。
2. **ノーマル**：白の色合いを通常に保ちます。
3. **暖**：画像を赤みがかった白で表示します。

任意の色温度を設定

1. **ピクチャ** > **色温度の詳細調整**メニューを開き、**Enter** を押します。
2. ▲/▼ を押して変更したいアイテムを選択し、◀ /▶ を押して値を調整します。
   - **R ゲイン /G ゲイン /B ゲイン**：赤、緑、青のコントラストレベルを調整します。
   - **R オフセット /G オフセット /B オフセット**：赤、緑、青の輝度レベルを調整します。

☞ **この機能はコンピュータ入力信号が選択されている場合にしか使用できません。**

色管理

重役会議室、レクチャシアター、ホームシアターなど、照明レベルを調整できる場所に設置した場合に限り、カラーマネージメントが必要となります。カラーマネージメントを使用すると、色をより正確に再現するために、より詳細に色を調整することができます。

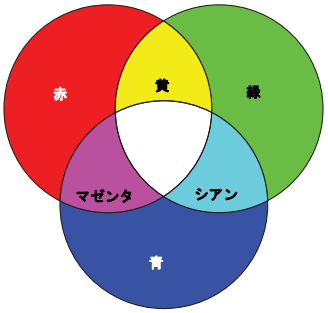
さまざまな色テストパターンが含まれたテストディスクを購入された場合は、モニター、TV、プロジェクターなどでの色表示をテストすることができます。ディスクに保管された画像ならどれでもスクリーンに投写することが可能であり、**カラーマネージメント**メニューで調整することができます。

設定を調整するには：

1. OSD メニューを開き、**ピクチャ** > **カラーマネージメント** メニューを選択してください。
2. **Enter** を押すと、**カラーマネージメント**ページが開きます。
3. **原色**を選択し、◀/▶ を押して赤、黄、緑、シアン、青、マゼンタの中から色を選択します。
4. ▼ を押して**色相**を選択し、◀/▶ を押して範囲を選択します。範囲を広げると、隣り合う 2 色のより広い範囲の色が含まれます。

   各色がどのように関連し合っているかについては、右図を参照してください。

   例えば、赤を選択し、その範囲を 0 に設定した場合、投写画像の中で純粋な赤だけが選択されます。範囲を広げると、黄に近い赤やマゼンタに近い赤も含まれます。



5. ▼ を押して**彩度**を選択し、◀/▶ を押して値を調整します。調整内容は直ちに画像に反映されます。

   例えば、赤を選択し、その範囲を 0 に設定した場合、純粋な赤の彩度だけが影響を受けます。

彩度はビデオ映像の色の量のことです。値を低くすると彩度が低くなります。「0」に設定すると、画像から完全に色を抜いてしまいます。彩度が高すぎると、色が濃すぎて非現実的な色になってしまいます。

6. ▼ を押して**ゲイン**を選択し、◀/▶ を押して値を調整します。選択した原色のコントラスト レベルが影響を受けます。調整内容は直ちに画像に反映されます。
7. 他のカラーマネージメントも行う場合は、ステップ 3 から 6 を繰り替えしてください。
8. すべて調整が完了したことを確認してください。

現在またはすべての画像モードをリセットする

1. **ピクチャ**メニューに進み、**カラー設定をリセットする**を選択します。
2. **Enter** を押した後、▲/▼ を押して**現在**または**すべて**を選択します。
   - **現在**：現在のカラーモードを工場出荷時の設定に戻します。
   - **すべて**：すべての画像モードを工場出荷時の初期値に戻します。

プレゼンテーションタイマーの設定

プレゼンテーションタイマーはプレゼンテーション時間をスクリーン上に表示して、発表者が上手く時間管理できるようにします。この機能を使用するには、次の手順にしたがってください。

1. リモコンの ⏲ を押すか、**基本** > **プレゼンテーション タイマー**メニューを選択します。
2. **タイマー間隔**を選択し、◀/▶ を使ってプレゼンテーション時間を設定します。タイマー時間は 1 分から 5 分まで 1 分おきに、5 から 240 分まで 5 分おきに設定できます。

☞ **すでにタイマーがオンになっている場合は、タイマー間隔をリセットするとタイマーがカウントを新しく開始します。**

3. ▼ を押して**タイマー表示**を選択し、◀/▶ を押してスクリーン上にタイマーを表示するかどうかを決定します。

選択	説明
常に使用する	プレゼンテーション中、常にタイマーをスクリーン上に表示します。
1 分 /2 分 /3 分	タイマーを最後の 1/2/3 分間だけ表示します。
常に使用しない	プレゼンテーション中、タイマーを表示しません。

4. ▼ を押して**タイマーの位置**を選択し、◀/▶ を押してタイマーの位置を決定します。

左上 → 左下 → 右上 → 右下

5. ▼ を押して**タイマーのカウント方法**を選択し、◀/▶ を押してカウント方向を選択します。

選択	説明
増加	0 からあらかじめ設定した時間までカウントを重ねます。
減少	あらかじめ設定した時間から 0 までカウントダウンします。

6. ▼ を押して**サウンドによる通知**を選択し、◀/▶ を押すことによってサウンドによる通知を有効にするかどうかを決定してください。**オン**を選択すると、カウントダウン / アップが残り 30 秒になると、ビーッという音が 2 回鳴り、タイプアップすると 3 回鳴ります。
7. プレゼンテーションタイマーを有効にするには、▼ を押した後、◀/▶ を押して**カウント開始**を選択し、**Enter** を押します。
8. 確認のメッセージが表示されます。**はい**を選択して、**Enter** を押します。スクリーン上に「**タイマーはオンです**」というメッセージが表示されます。タイマーがオンになると、タイマーがカウントを開始します。

タイマーを中止するには、次の手順にしたがってください。

1. リモコンの ⏲ を押すか、**基本** > **プレゼンテーション タイマー**メニューを選択します。
2. **オフ**を選択してください。**Enter** を押します。確認のメッセージが表示されます。

3. **はい**を選択して、**Enter** を押します。スクリーン上に「**タイマーはオフです**」というメッセージが表示されます。

画像を隠す

BLANK を使用するとスクリーンの画像が消えるため、聴衆の関心をすべて講演者に向けることができます。プロジェクターまたはリモコンのキーをどれでも押すと、画像を再開することができます。イメージが非表示になると、スクリーンの右隅に、「**BLANK**」と表示されます。

消画時間を**基本** > **画面オフタイマー**メニューで設定しておくと、消画画面で何も操作が行われないときには、一定時間が経過すると自動的にプロジェクターが画像を表示します。

Blank を押すと、プロジェクターが自動的に Eco モードに入ります。

注意

投写中に投写レンズを他の物体で覆わないでください。その物体が過熱し、火災の原因となり危険です。

コントロールキーをロックする

プロジェクターのコントロールキーをロックしておくと、（例えばお子様によって）プロジェクターの設定が誤って変更されるのを防止することができます。**パネル キー ロック**がオンになっているときには、プロジェクターのコントロールキーは ⏻**Power** を除き、どれも作動しません。

1. **システム設定**：**基本** > **パネル キー ロック**メニューに進みます。
2. **Enter** を押した後、▲/▼ を押して**オン**を選択します。
3. すると確認のメッセージが表示されます。**はい**を選択して確定します。

パネルキーロックを解除するには、リモコンを使って**システム設定**：**基本** > **パネル キー ロック**メニューに入り、**オフ**を選択することもできます。

パネルキー ロックが有効になっていても、リモコンのキーは使用できます。

パネルキー ロックを無効にせずに ⏻Power を押してプロジェクターをオフにすると、プロジェクターを次回オンにしたときにもロックされたままの状態になっています。

高地での操作

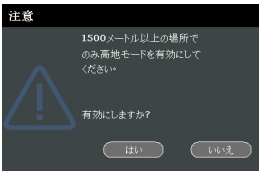
海抜 1500 m ～ 3000 m、気温 0°C ～ 30°C の環境で本製品を使用する場合は、**高地対応モード**を使用されるようお勧めします。

注意

高度 0 m ～ 1499 m、温度 0°C ～ 35°C の範囲内では高地対応モードは使用しないでください。このような環境でこのモードを有効にすると、プロジェクターが過度に冷却されてしまいます。

高地対応モードに設定するには：

1. OSD メニューを開き、**システム設定：詳細** > **高地対応モード** メニューを選択してください。
2. **Enter** を押した後、▲/▼ を押して**オン**を選択します。すると確認のメッセージが表示されます。
3. **はい**を選択し、**Enter** を押します。



「**高地対応モード**」を選択した場合は、システムの性能を維持するために冷却ファンが回転速度を速めるために操作ノイズが高くなる場合があります。

上記の場合を除き、それ以外の極限環境でプロジェクターを使用すると、プロジェクターが自動的にシャットダウンする場合があります。これはプロジェクターを過熱から保護するために施された機能です。このような場合は、**高地対応モード**に切り替えてこのような現象を解決してみてください。ただし、これはこのプロジェクターが極限状態でも操作可能であるということを保証するものではありません。

3D 機能の使用方法

このプロジェクターには、画像に深みを与えることで 3D ムービー、動画、スポーツイベントをよりリアルにご覧いただける 3D 機能が搭載されています。3D 映像をご覧になるには、3D メガネを着用する必要があります。

3D 信号が HDMI 1.4a 互換機から入力されており、**3D モード**が**自動**に設定されている場合は、プロジェクターが検出されると自動的に 3D フォーマットで映像を投写します。それ以外の場合は、3D 画像を正しく投写するためには手動で **3D モード**フォーマットを選択する必要があります。

1. **表示** > **3D 設定**メニューに進みます。
2. **Enter** を押します。すると **3D 設定** ページが表示されます。
3. **3D モード**を選択し、**Enter** を押します。
4. ▼ を押して **3D モード**設定を選択し、**Enter** を押して確定します。

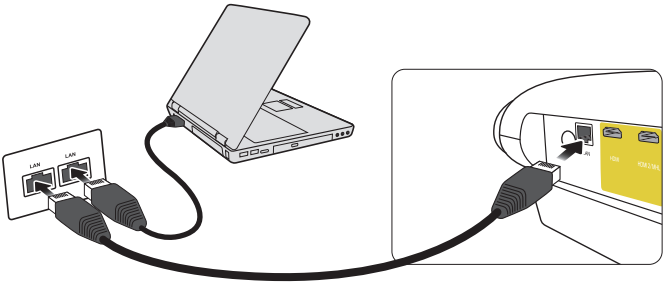
3D モード機能がオンのとき：

- **投写画像の輝度レベルが下がります。**
- **カラーモードは調整できません。**
- **ズーム機能は、画像を一定のサイズまで拡大します。**

画像の深さが逆転している場合は、3D 逆同期機能を逆転にすると問題を解決できます。

LAN 環境でプロジェクターを操作する

このプロジェクターは、Crestron® ソフトウェアに対応しています。**有線 LAN** メニューの正しい設定を使うと、コンピュータとプロジェクターが同じ LAN に接続されている場合は、ウェブブラウザでコンピュータからプロジェクターを管理することができます。



（接続例）

有線 LAN を構成する

DHCP 環境の場合：

1. RJ45 ケーブルでプロジェクターの RJ45 LAN 入力ジャックと RJ45 ポートを接続してください。
2. OSD メニューを開き、**システム設定：詳細** > **LAN コントロール設定** > **有線 LAN** メニューを選択してください。
3. **Enter** を押します。すると**有線 LAN** ページが表示されます。
4. **DHCP** を選択し、◀ /▶ を押して**オン**を選択してください。
5. ▼ を押して**適用**を選択し、次に **Enter** を押してください。
6. 15 - 20 秒ほどお待ちになると、**有線 LAN** ページが再度開きます。すると **IP アドレス**、**サブネットマスク**、**既定のゲートウェイ**および **DNS サーバー**設定が表示されます。**IP アドレス**列に表示される IP アドレスを書き留めておいてください。

☞ **それでも IP アドレス が表示されない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。**

☞ **RJ45 ケーブルが正しく接続されていなければ、IP アドレス、サブネットマスク、既定のゲートウェイ、DNS サーバー設定は 0.0.0.0 と表示されます。ケーブルが正しく接続されており、上記の手順を再度確認してください。**

☞ **スタンバイモードでプロジェクターに接続する必要がある場合は、システム設定：詳細 > スタンバイ設定 > ネットワークメニューでネットワークのスタンバイ モードを有効にするをオンに設定します。**

非 DHCP 環境の場合：

1. 上記のステップ 1-3 の手順に従ってください。
2. **DHCP** を選択し、◀ /▶ を押して**オフ**を選択してください。
3. ITS 管理者から **IP アドレス**、**サブネットマスク**、**既定のゲートウェイ**、**DNS サーバー**設定などの情報を取得してください。
4. ▼ を押して調整したいアイテムを選択し、**Enter** を押します。

5. ◀/▶ を押してカーソルを動かし、▲/▼ を押して値を入力します。
6. 設定を保存するには、**Enter** を押します。設定を保存しない場合は、**Exit** を押します。
7. ▼ を押して**適用**を選択し、次に **Enter** を押してください。

RJ45 ケーブルが正しく接続されていなければ、IP アドレス、サブネットマスク、既定のゲートウェイ、DNS サーバー設定は 0.0.0.0 と表示されます。ケーブルが正しく接続されており、上記の手順を再度確認してください。

プロジェクターをスタンバイモードで接続したい場合は、DHCP をオフに設定し、プロジェクターがオンのときに IP アドレス、サブネットマスク、既定のゲートウェイ、DNS サーバー情報を取得してください。

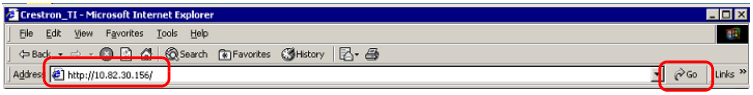
ウェブブラウザからプロジェクターを操作する

プロジェクターの正しい IP アドレスを取得し、プロジェクターをオンまたはスタンバイモードに設定した後は、同一 LAN に接続されているコンピュータを使ってプロジェクターを操作することができます。

Microsoft Internet Explorer を使用する場合は、7.0 以上のバージョンであることを確認してください。

本書に掲載されるスクリーンショットは参照用であり、実際の仕様とは異なる場合があります。

1. ブラウザのアドレスバーにプロジェクターのアドレスを入力し、**Enter** を押します。



2. Network Control（ネットワーク コントロール）のメインページが表示されます。

Network Settings（ネットワーク設定）ページまたは Email Alert（電子メール警告）ページを開くには、Administrator（管理者）パスワードが必要です。デフォルトのパスワードは「0000」です。

3. このページでは、AMX と SNMP の設定を調整することができます。AMX device discovery（AMX デバイス検出）行で ON（オン）を選択すると、同じネットワークに接続されている AMX のコントローラによってプロジェクターを検出することができます。AMX Device discovery（AMX デバイス検出）の詳細については、AMX のウェブサイトをご覧ください (http://www.amx.com/)。

4. プロジェクターが Simple Mail Transfer Protocol（シンプル メール トランスファー プロトコル、SMTP）をサポートするネットワークに接続されている場合は、重大な問題が発生した場合、電子メールで警告するよう設定できます。

5. Crestron (e-Control) ページでは、Crestron e-Control ユーザー インターフェイスが表示されます。詳細は、37 ページの「Crestron e-Control® について」を参照してください。

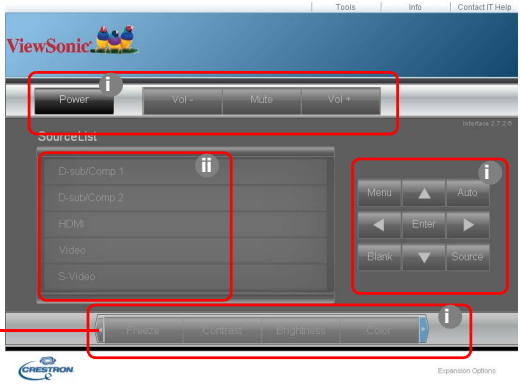
次のリストの入力長の上限（スペースとその他の句読点キーを含みます）にご注意ください。

カテゴリー アイテム		入力長	文字の最大数
Network Settings（ネットワーク設定）	Network（ネットワーク）	DHCP/Manual（DHCP/ 手動）	（該当なし）
		IP Address（IP アドレス）	XXX.XXX.XXX.XXX
		Subnet Mask（サブネットマスク）	XXX.XXX.XXX.XXX
		Gateway（ゲートウェイ）	XXX.XXX.XXX.XXX
		DNS Server（DNS サーバー）	XXX.XXX.XXX.XXX
		AMX device discovery（AMX デバイス検出）	（該当なし）
	Password（パスワード）	Administrator（管理者）	（該当なし）
		New Password（新しいパスワード）	4
		Confirm Password（パスワードの確認入力）	4
	SNMP	SysLocation	22
		SysName	22
		SysContact	22
Email Alert（電子メール警告）	Email Setting（電子メール設定）	To（宛先）	40
		Cc	40
		Subject（件名）	40
		From（発信者）	40
	SMTP Setting（SMTP 設定）	Server（サーバー）	30
		User Name（ユーザー名）	21
		Password（パスワード）	14
	Alert Condition（警告条件）	Fan Error（ファンエラー）	（該当なし）
		Light source Error（光源エラー）	（該当なし）
		Over Temperature（過熱）	（該当なし）
		Light source Time Alert（光源時間警告）	（該当なし）
		Submit（送信）	（該当なし）
		Issue Test Mail（問題テストメール）	（該当なし）

/ > < $ % + \ ' " はご使用いただけません。

Crestron e-Control® について

1. Crestron e-Control® ページでは、プロジェクターを操作したり、投写画像を調整したりするための各種仮想キーを使用できます。



◀/▶ を押すと、他のボタンも表示されます。

i. これらのボタンは、OSD メニューやリモコンのボタンを同じように作動します。詳細は、46 ページの「2. **ピクチャメニュー**」と 6 ページの「プロジェクター」を参照してください。

ii. 入力信号を切り替えるには、任意の信号をクリックしてください。

前の OSD メニューに戻り、メニュー設定を保存して終了するには、Menu（メニュー）ボタンを使用することもできます。

ソース リストはプロジェクターに装備されているコネクタによって異なります。

プロジェクターのコントロールパネルかリモコンを使って OSD メニューの設定を変更するときには、ウェブブラウザとプロジェクターがこれらの変更を同期するまでしばらく時間がかかります。

2. Tools（ツール）ページでは、このプロジェクターでプロジェクターを管理したり、LAN 操作の設定を行ったり、リモートネットワーク操作のセキュアアクセスを設定したりすることができます。

i. このセクションは、Crestron Control System でのみ使用します。設定については、Creston にお問い合わせになるか、取り扱い説明書を参照してください。
ii. プロジェクターに名前を付けたり、プロジェクターの場所や担当者を追跡したりすることができます。
iii. **有線 LAN** を調整することができます。
iv. パスワードを設定すると、このプロジェクターのリモートネットワーク操作がパスワードで保護されます。
v. パスワードを設定すると、ツールページへのアクセスがパスワードで保護されます。

☞ **エラーが生じるため、ツールページではアルファベットと数字のみ入力してください。**

☞ **調整後は、Send（送信）ボタンを押すとデータがプロジェクターに保存されます。**

vi. **Exit（終了）**を押すと、リモートネットワーク操作ページに戻ります。

次のリストの入力長の上限（スペースとその他の句読点キーを含みます）にご注意ください。

カテゴリー アイテム	入力長	文字の最大数
Crestron Control（Crestron コントロール）	IP Address（IP アドレス）	16
	IP ID	4
	Port（ポート）	5
Projector（プロジェクター）	Projector Name（プロジェクター名）	32
	Location（設置場所）	32
	Assigned To（割り当て先）	32
Network Configuration（ネットワークの設定）	DHCP (Enabled)（DHCP（有効））	（該当なし）
	IP Address（IP アドレス）	16
	Subnet Mask（サブネットマスク）	16
	Default Gateway（既定のゲートウェイ）	16
	DNS Server（DNS サーバー）	16
User Password（ユーザーパスワード）	Enabled（有効）	（該当なし）
	New Password（新しいパスワード）	26
	Confirm（確認）	26
Admin Password（管理者パスワード）	Enabled（有効）	（該当なし）
	New Password（新しいパスワード）	26
	Confirm（確認）	26

3. Info（情報）ページには、このプロジェクターの情報と状態が表示されます。

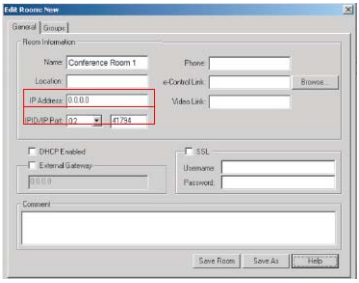
Exit（終了）を押すと、リモートネットワーク操作ページに戻ります。

4. 「Contact IT Help」（IT ヘルプに問い合わせる）ボタンを押すと、画面の右隅に HELP DESK（ヘルプ デスク）画面が開きます。同じ LAN に接続している RoomView™ ソフトウェアの管理者 / ユーザーにメッセージを配信することができます。

詳細は、http://www.crestron.com と www.crestron.com/getroomview をご覧ください。

****Crestron RoomView**

「Edit Room」（編集室）ページで、プロジェクターのオン スクリーン ディスプレイ (OSD) メニューに表示される IP アドレス（またはホスト名）を入力し、IPID は「02」、予約された Crestron コントロールポートは「41794」を入力してください。



Crestron RoomView™ 設定およびコマンド方式については、次のウェブサイトを開き、RoomView™ ユーザーガイドをダウンロードしてください。
http://www.crestron.com/products/roomview_connected_embedded_projectors_devices/resources.asp

PJLink™、SNMP、AMX、Xpanel フォーマットに対応

このプロジェクターは、PJLink™、SNMP V.1、AMX、Xpanel V1.10 に準拠しています。プロジェクターを操作、管理するには、取り扱い説明書かウェブサイトをご覧ください。

スタンバイモードでプロジェクターを使う

プロジェクターの一部の機能はスタンバイモード（接続されているがオンになっていない）で使用することができます。これらの機能を使用するには、ケーブルが正しく接続されているか確認してください。接続方式については、接続の章を参照してください。

VGA 出力します

システム設定：**詳細** > **スタンバイ設定** > **VGA 出力します**で**オン**を選択すると、**COMPUTER 1** ソケットと **COMPUTER OUT** ソケットが正しく機器に接続されているとき VGA 信号を出力します。このプロジェクターは、**COMPUTER 1** から受信した信号のみ出力します。

LAN コントロール

システム設定：**詳細** > **スタンバイ設定** > **ネットワーク**で次の設定を行うと、スタンバイモードのときネットワーク機能を提供します。詳細は、33 ページの「LAN 環境でプロジェクターを操作する」を参照してください。

- **ネットワークのスタンバイ モードを有効にする**：プロジェクターがスタンバイモードのときには、ネットワーク機能を提供しません。
- **ネットワーク待機モードを自動無効**：スタンバイモードに入ってから一定の時間が経過すると、ネットワーク機能が無効になります。たとえば、20 分と設定した場合、プロジェクターがスタンバイモードになってから 20 分間ネットワーク機能が提供されます。20 分過ぎると、プロジェクターは通常のスタンバイモードに入ります。

サウンドの調整

次の手順はプロジェクターのスピーカーの音量調整を行うためのものです。プロジェクターのオーディオ入力 / 出力ジャックが正しく接続されていることを確認してください。詳細は、13 ページの「接続」を参照してください。

無音にする

1. OSD メニューを開き、**システム設定：詳細** > **オーディオ設定** > **ミュート**メニューを選択してください。
2. ◀/▶ を押して**オン**を選択します。

リモコンに 🔇 がある場合は、これを押すことができます。

音量を調整する

1. OSD メニューを開き、**システム設定：詳細** > **オーディオ設定** > **音量**メニューを選択してください。
2. ◀/▶ を押して、音量を選択します。

リモコンに 🔊+/🔉− がある場合は、これを押してプロジェクターの音量を調整することができます。

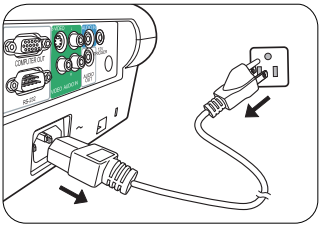
電源オン / オフ音をオフにする

1. OSD メニューを開き、**システム設定：詳細** > **オーディオ設定** > **電源オン / オフ音**メニューを選択してください。
2. ◀/▶ を押して**オフ**を選択します。

☞ 電源オン / オフ音を変更するには、ここでオンまたはオフを設定する以外に方法はありません。無音にしたり、音量を変更したりしても、電源オン / オフ音には影響しません。

プロジェクターをシャットダウンする

1. ⏻Power を押すと、確認を促すメッセージが表示されます。
   数秒以内に応答しなければ、メッセージは自動的に消えます。
2. 再び ⏻Power を押します。
3. 冷却が完了すると、「電源オフ音」が聞こえます。長時間プロジェクターを使用しない場合は、コンセントから電源コードを抜いてください。



☞ 通知音を切る方法については、40 ページの「電源オン / オフ音をオフにする」を参照してください。

⚠ 注意

- 光源を保護するため、冷却プロセスの間はプロジェクターはいかなるコマンドにも反応しません。
- プロジェクターのシャットダウン シーケンスが完了するまでは、電源コードを抜かないでください。

メニューの操作

メニュー システム

オン スクリーン ディスプレイ (OSD) メニューは、選択した信号のタイプにより異なります。

メニューアイテムはプロジェクターが最低 1 つの有効な信号を検出しなければ有効にはなりません。プロジェクターに装置が接続されていなかったり、信号が何も検出されなければ、限られたメニューアイテムにしかアクセスすることができません。

メイン メニュー	サブメニュー		オプション
1. 表示	画面の色		オフ / 黄色 / グリーンボード / 黒板
	縦横比		自動 / リアル /4:3/16:9/16:10
	台形補正		
	位置		
	位相		
	水平サイズ		
	ズーム		
	3D 設定	3D モード	自動 / 上 - 下 /F. シーケンシャル / フレーム パッキング / 横に並べる / オフ
		3D 逆同期	無効 / 逆転
	パターン		オフ / テストカード / メモ帳 / 世界地図
2. ピクチャ	カラーモード		明るく / ダイナミック / 標準 /sRGB/ ムービー /(3D)
	輝度		
	コントラスト		
	色		
	色調		
	シャープネス		
	Brilliant Color		オフ / オン
	色温度		暖 / ノーマル / 冷
	色温度の詳細調整		R ゲイン /G ゲイン /B ゲイン / R オフセット /G オフセット /B オフセット
	カラーマネージメント	原色	R/G/B/C/M/Y
		色相	
		彩度	
		ゲイン	
	カラー設定をリセットする		現在 / すべて / キャンセル

メイン メニュー	サブメニュー		オプション
3. ソース	クイック自動検索		オフ / オン
	カラースペース反転		自動 /RGB 制限範囲 / RGB 全範囲 /YUV 制限範囲 / YUV 全範囲
4. システム設定：基本	プレゼンテーション タイマー	タイマー間隔	1~15~240 m
		タイマー表示	常に使用する /1 分 /2 分 /3 分 / 常に使用しない
		タイマーの位置	左上 / 左下 / 右上 // 右下
		タイマーのカウント方法	減少 / 増加
		サウンドによる通知	オン / オフ
		カウント開始 / オフ	
	言語		多言語 OSD 選択
	プロジェクタの投写位置		前面投写 / リア投写 / 天井リア投写 / 天井前面投写
	メニュー設定	メニュー表示時間	5 秒 /10 秒 /20 秒 /30 秒 / 常に使用する
		メニュー位置	中央 / 左上 / 右上 / 左下 / 右下
		アラームメッセージ	オン / オフ
	操作設定	ダイレクト電源オン	オン / オフ
		信号入力時電源オン	コンピュータ
			HDMI
		自動パワーオフ	無効 /3 分 /10 分 /15 分 /20 分 / 25 分 /30 分
		画面オフタイマー	無効 /5 分 /10 分 /15 分 /20 分 / 25 分 /30 分
		スリープ タイマー	無効 /30 分 /1 時間 /2 時間 / 3 時間 /4 時間 /8 時間 /12 時間
		フィルタタイマーをリセット	リセット / キャンセル
	パネル キー ロック		オフ / オン
	スプラッシュ スクリーン		黒 / 青 /ViewSonic

メイン メニュー	サブメニュー		オプション
5. システム設定： 詳細	高地対応モード		オン / オフ
	オーディオ設定	ミュート	オン / オフ
		音量	
		電源オン / オフ音	オン / オフ
	光源の設定		ノーマル /Eco
	セキュリティ設定	パスワードの変更	
		セキュリティ設定の変更	
		電源ロック	オフ / オン
	ボーレート		2400/4800/9600/14400/ 9200/38400/57600/ 115200
	クローズドキャプション	クローズドキャプション有効	オン / オフ
		キャプションバージョン	CC1/CC2/CC3/CC4
	スタンバイ設定	ネットワーク	ネットワークのスタンバイ モードを有効にする
			ネットワーク待機モードを自動無効
		VGA 出力します	オン / オフ
	LAN コントロール設定	有線 LAN	状態
			DHCP
			IP アドレス
			サブネットマスク
			既定のゲートウェイ
			DNS サーバー
			適用
		AMX デバイス検索	オン / オフ
		MAC アドレス	
	全設定クリア		リセット / キャンセル
6. 情報	• ソース • カラーモード • 解像度 • カラー システム • 光源の使用時間 • IP アドレス • MAC アドレス • ファームウェアバージョン		

各メニューの説明

機能		説明
1. 表示メニュー	**画面の色**	詳細は、27 ページの「画面の色の使い方」を参照してください。
	縦横比	詳細は、25 ページの「縦横比の選択」を参照してください。
	台形補正	詳細は、24 ページの「キーストーンの補正」を参照してください。
	位置	位置調整ページが開きます。投写画像を移動させるには、方向矢印キーを使用します。ページの下に表示される値は、キーを押すたびにその最高値または最低値に達するまで変化します。 ☞ **この機能は PC 入力信号が選択されている場合にしか使用できません。** ☞ **調整範囲はタイミング毎に異なります。**
	位相	画像の歪みを減少させるためにクロック位相を調整します。 ☞ **この機能は PC 入力信号が選択されている場合にしか使用できません。**
	水平サイズ	イメージの幅を調整します。 ☞ **この機能は PC 入力信号が選択されている場合にしか使用できません。**
	ズーム	詳細は、25 ページの「詳細の拡大と検索」を参照してください。
	3D 設定	詳細は、32 ページの「3D 機能の使用方法」を参照してください。
	パターン	プロジェクターはいくつかのテストパターンを表示できます。これはイメージサイズとフォーカスを調整し、投写画像に歪みがないことを確認するのに役立ちます。

機能		説明
2. ピクチャメ	カラーモード	詳細は、26 ページの「カラーモードの選択」を参照してください。
	輝度	詳細は、27 ページの「輝度の調整」を参照してください。
	コントラスト	詳細は、27 ページの「コントラストの調整」を参照してください。
	色	詳細は、27 ページの「色の調整」を参照してください。
	色調	詳細は、28 ページの「色調の調整」を参照してください。
	シャープネス	詳細は、28 ページの「シャープネスの調整」を参照してください。
	Brilliant Color	詳細は、28 ページの「Brilliant Color の調整」を参照してください。
	色温度	詳細は、28 ページの「色温度の選択」を参照してください。
	色温度の詳細調整	詳細は、28 ページの「任意の色温度を設定」を参照してください。
	カラーマネージメント	詳細は、28 ページの「色管理」を参照してください。
	カラー設定をリセットする	すべて、または現在のカラーモードを工場出荷時の値に戻します。
3. ソースメニュー	クイック自動検索	詳細は、23 ページの「入力信号の切り替え」を参照してください。
	カラースペース反転	詳細は、23 ページの「HDMI 入力設定の変更」を参照してください。

	機能	説明
4. システム設定：基本メニュー	プレゼンテーション タイマー	詳細は、30 ページの「プレゼンテーションタイマーの設定」を参照してください。
	言語	オンスクリーン ディスプレイ (OSD) メニューの言語を設定します。詳細は、20 ページの「メニューの使用方法」を参照してください。
	プロジェクタの投写位置	詳細は、10 ページの「設置場所の選択」を参照してください。
	メニュー設定	**メニュー表示時間** 最後にキーを押してからの OSD の表示時間を設定します。設定は 5 秒毎に 5 から 30 秒までの範囲で設定できます。 **メニュー位置** オン スクリーン ディスプレイ (OSD) メニューの位置を設定します。 **アラームメッセージ** アラーム メッセージをオンまたはオフにします。
	操作設定	**ダイレクト電源オン** **オン**に設定すると、電源コードから電源が供給されたときに、プロジェクターが自動的にオンになります。 **信号入力時電源オン** プロジェクターがスタンバイ モードになっており、5 V の VGA 信号または HDMI 信号が検出されると、プロジェクターを直接オンにするかどうかを設定します。 **自動パワーオフ** 指定した時間を経過しても入力信号が検出されないときには、不要に光源の寿命を消耗しないように自動的にプロジェクターの電源をオフにします。 **画面オフタイマー** 詳細は、31 ページの「画像を隠す」を参照してください。 **スリープ タイマー** 詳細は、52 ページの「設定スリープ タイマー」を参照してください。 **フィルタタイマーをリセット** 詳細は、51 ページの「フィルタタイマーのリセット」を参照してください。
	パネル キー ロック	詳細は、31 ページの「コントロールキーをロックする」を参照してください。
	スプラッシュ スクリーン	プロジェクター起動時に表示されるロゴ画面を、ユーザーが選択することができます。

機能		説明
5. システム設定：詳細メニュー	高地対応モード	高地で使用する場合の操作モードです。詳細は、31 ページの「高地での操作」を参照してください。
	オーディオ設定	詳細は、40 ページの「サウンドの調整」を参照してください。
	光源の設定	詳細は、52 ページの「設定光源の設定」を参照してください。
	セキュリティ設定	詳細は、21 ページの「パスワード機能を使用する」を参照してください。
	ボーレート	適切な RS232 ケーブルを使ってプロジェクターをコンピュータに接続し、RS232 コマンドでプロジェクターを操作できるように、ボーレートはコンピュータと同じ値に設定してください。
	クローズドキャプション	選択した入力信号にクローズドキャプションがある場合は、任意のクローズド キャプション方式を選択してください。 • キャプション：TV 番組や動画のダイアログ、ナレーション、サウンド効果が画面に表示されます（TV 番組表には通常「CC」と表記されます）。 ☞ **この機能はコンポジット ビデオ入力信号が選択され、システムフォーマットが NTSC の場合にしか使用できません。** **キャプションバージョン** キャプションを表示するには、CC1、CC2、CC3、CC4（CC1 はキャプションをその地域の第一言語で表示します）を選択します。
	スタンバイ設定	詳細は、40 ページの「スタンバイモードでプロジェクターを使う」を参照してください。
	LAN コントロール設定	**有線 LAN** 詳細は、33 ページの「LAN 環境でプロジェクターを操作する」を参照してください。 **AMX デバイス検索** この機能が**オン**のときには、プロジェクターを AMX コントローラで検出することができます。 **MAC アドレス** このプロジェクターの mac アドレスを表示します。
	全設定クリア	すべての設定を工場出荷時の値に戻します。 ☞ **次の設定は現在の設定値のまま維持されます：台形補正、プロジェクタの投写位置、高地対応モード、セキュリティ設定、ボーレート、LAN コントロール設定。**

機能		説明
6. 情報メニュー	現在のシステム状態	**ソース** 現在の信号ソースを表示します。 **カラーモード** **ピクチャ**メニューで選択したモードを表示します。 **解像度** 入力信号のネイティブ解像度を表示します。 **カラー システム** 入力システムフォーマットを表示します。 **光源の使用時間** 光源の使用時間数を表示します。 **IP アドレス** プロジェクターの IP アドレスが表示されます。 **MAC アドレス** プロジェクターの MAC アドレスが表示されます。 ☞ **MAC アドレスとは、Media Access Control アドレスの略です。これは、ネットワーク ノードを独自に認識するための物理的レイヤー アドレスです。** **ファームウェアバージョン** 現在のファームウェア バージョンを表示します

メンテナンス

プロジェクターのお手入れ

レンズとフィルタ（別売りアクセサリ）は、定期的にお手入れをしてください。

プロジェクターのパーツは絶対に取り外さないでください。プロジェクターのパーツの交換が必要な場合は、販売店にご相談ください。

レンズのクリーニング

表面に汚れやほこりが付いていたら、レンズのお手入れが必要です。

- 圧縮空気スプレーを使ってほこりを取り除いてください。
- 汚れやしみが付いた場合は、レンズ クリーニング ペーパーまたはレンズ クリーナで湿らせた柔らかい布でレンズの表面を軽く拭きます。

⚠ **注意**

研磨剤でレンズをこすらないでください。

プロジェクター ケースのお手入れ

ケースのお手入れを行う前に、41 ページの「プロジェクターをシャットダウンする」に記載されている正しい手順でプロジェクターの電源を切り、電源コードを抜いてください。

- ほこりや汚れを取り除くには、柔らかい、けば立ちのない布で拭きます。
- 落ちにくい汚れやしみを取り除くには、水で薄めた中性洗剤で布を湿らせて、ケースを拭きます。

⚠ **注意**

ワックス、アルコール、ベンジン、シンナー、その他の化学洗剤は使用しないでください。こうした薬剤を使用すると、ケースを傷める場合があります。

プロジェクターの保管

長期間プロジェクターを保管する必要がある場合、次の手順に従ってください。

- 保管場所の温度と湿度が、プロジェクターの推奨範囲内であることを確認します。詳細は、56 ページの「仕様」を参照するか、販売店にお尋ねください。
- 調整脚をおさめます。
- リモコンから電池を取り外します。
- プロジェクターを元の梱包または同等の梱包にしまいます。

プロジェクターの移動

プロジェクターを搬送するときは、元の梱包または同等の梱包で行うことを推奨します。

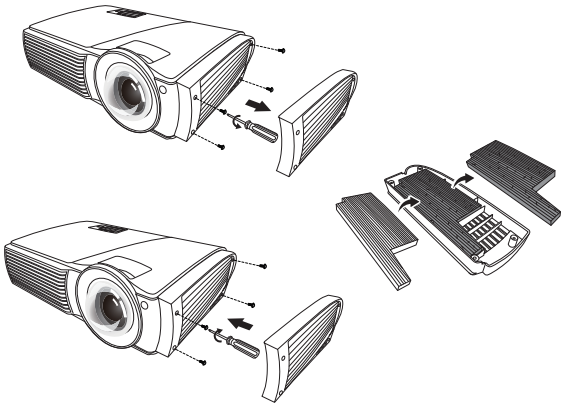
ダストフィルタの使い方

注意

- **ダストフィルタを取り付けた後は、500 時間おきにフィルタをお手入れしてください。**
- **フィルタを取り付けたり、取り外したりする前に、プロジェクターの電源を切って、プラグをコンセントから抜いてください。**
- **プロジェクターが天井に取り付けられている場合、または簡単に手の届かない場所に取り付けられている場合は、ダストフィルタを交換する際は特に注意してください。**

ダストフィルタの交換

1. プロジェクターの電源を切って、プラグをコンセントから抜いてください。
2. プロジェクターの両側にあるダストフィルタカバーの位置を確認し、4 個のネジを緩めてください。ネジは後から使用できるように、保管しておいてください。プロジェクターからダストフィルタカバーを外します。
3. ダスト フィルタカバーの中の使用済みのフィルタを新しいフィルタに交換します。古いフィルタは、各自治体の回収規則にしたがってください。
4. ネジ回しを使ってダストフィルタカバーを基に戻し、ステップ 2 で外したネジを締めてください。



フィルタタイマーのリセット

5. OSD メニューを開き、**システム設定：基本** > **操作設定**メニューを選択してください。
6. **Enter** を押すと、**操作設定**ページが開きます。
7. **フィルタタイマーをリセット**を選択し、**Enter** を押します。フィルタタイマーをリセットしても良いかどうかを確認するためのメッセージが表示されます。
8. **リセット**を選択し、**Enter** を押します。すると光源時間が「0」にリセットされます。

光源について

光源の寿命を延長するには

投写光源は消費アイテムです。光源の寿命をできるだけ長く維持するには、OSD メニューで次の設定を行ってください。

設定光源の設定

プロジェクターを **Eco** モードに設定すると、システムノイズと電力消費量を低減させ、光源の寿命を延長できます。

光源モード	説明
ノーマル	光源を完全に明るくします。
Eco	光源の電力消費量を最大で 30% も低減し、輝度を下げて光源の寿命を延長させるだけでなく、ファンのノイズも低減させます。

光源の設定を設定するには、**システム設定**：**詳細** > **光源の設定**メニューを開き、◀/▶ を押して選択します。または、リモコンで **Eco Mode** を押します。

設定自動パワーオフ

指定した時間が経過しても入力源が検出されない場合は、不要に光源の寿命を消耗しないように自動的にプロジェクターの電源をオフにします。

1. OSD メニューを開き、**システム設定**：**基本** > **操作設定**メニューを選択してください。
2. **Enter** を押すと、**操作設定**ページが開きます。
3. **自動パワーオフ**を選択し、◀/▶ を押します。
4. プリセットの時間がこれから行うプレゼンテーションに合わない場合は、**無効**を選択してください。この場合、一定時間が経過してもプロジェクターは自動的にシャットダウンしません。

設定スリープ タイマー

指定した時間が経過すると、不要に光源の寿命を消耗しないように自動的にプロジェクターの電源をオフにします。

1. OSD メニューを開き、**システム設定**：**基本** > **操作設定**メニューを選択してください。
2. **Enter** を押すと、**操作設定**ページが開きます。
3. **スリープ タイマー**を選択し、◀/▶ を押します。
4. プリセットの時間がこれから行うプレゼンテーションに合わない場合は、**無効**を選択してください。この場合、一定時間が経過してもプロジェクターは自動的にシャットダウンしません。

光源を交換するタイミング

光源インジケーターライトが点灯したら、新しい光源を取り付けるか、販売店にお問い合わせください。古い光源を使用すると、プロジェクターの誤動作の原因となり、光源が破裂することもあります。

⚠ **注意**

光源が過熱すると、光源インジケーターライトと温度インジケーターライトが点灯します。この場合は、電源をオフにして 45 分間ほど放置し、プロジェクターを常温に戻してください。このようにしても電源をオンにしたときに光源インジケーターライトまたは温度インジケーターライトが点灯する場合は、販売店にご相談ください。詳細は、54 ページの「インジケーター」を参照してください。

光源の交換

⚠ **電源を切り、プロジェクターをコンセントから抜いてください。光源を交換する場合は、専門の技術者に依頼してください。**

インジケーター

ライト			状態と説明
POWER	TEMP	LIGHT	
電源の状況			
オレンジ	オフ	オフ	スタンバイ モード
緑 に点滅	オフ	オフ	電源を入れています。
緑	オフ	オフ	通常動作状態です。
オレンジ に点滅	オフ	オフ	通常の電源オフ冷却プロセスです。
赤 に点滅	赤 に点滅	赤 に点滅	ダウンロード。
緑	オフ	赤	CW スタート失敗。
赤 に点滅	オフ	オフ	スケーラー シャットダウン失敗（データ中止）。
赤	オフ	赤	スケーラー リセット失敗（ビデオ プロジェクターのみ）。
緑	オフ	オフ	書き込みオン。
緑	緑	緑	書き込みオフ。
光源イベント			
オフ	オフ	赤	通常動作時に光源エラー発生。
オフ	オフ	オレンジ に点滅	光源が点灯していません。
緑	オフ	オレンジ	光源の寿命が切れました。
温度の状況			
赤	赤	オフ	ファン 1 エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
赤	赤 に点滅	オフ	ファン 2 エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
赤	緑	オフ	ファン 3 エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
赤	緑 に点滅	オフ	ファン 4 エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
緑	赤	オフ	温度 1 エラー（上限温度オーバー）。
緑	赤 に点滅	オフ	感熱センサー 1 オープン エラー。
緑	緑	オフ	感熱センサー 1 ショート エラー。
緑	緑 に点滅	オフ	感熱 IC #1 I2C 接続エラー。
緑 に点滅	緑 に点滅	オフ	感熱 IC #2 I2C 接続エラー。
緑	赤	赤	適温範囲外エラー。

トラブルシューティング

⑦ プロジェクターの電源がオンにならない。

原因	対応
電源コードから電源が来ていません。	電源コードが、プロジェクターの AC 入力と、コンセントに、正しく差し込まれていることを確認してください。また、コンセントにスイッチがある場合は、スイッチがオンになっていることを確認してください。
冷却プロセスの間にプロジェクターの電源をオンにしようとしています。	冷却プロセスが完了するまでお待ちください。

⑦ 画像が映らない。

原因	対応
ビデオ ソースがオンになっていないか、正しく接続されていません。	ビデオ ソースをオンにし、信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
プロジェクターが正しく入力信号デバイスに接続されていません。	接続を確認します。
入力信号が正しく選択されていません。	プロジェクターまたはリモコンの **Source** キーで正しい入力信号を選択します。

⑦ イメージがぼやける。

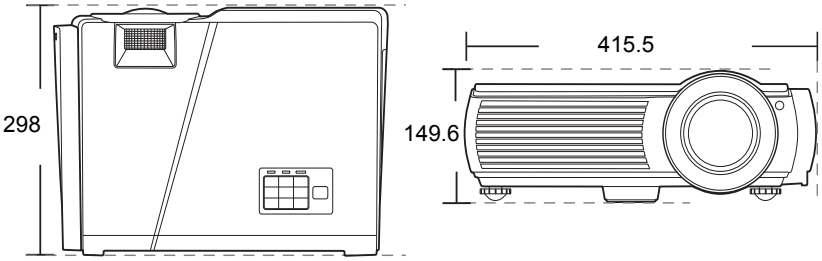
原因	対応
投写レンズの焦点が合っていません。	フォーカスリングで焦点を合わせてください。
プロジェクターとスクリーンの位置が正しく合っていません。	投写角度および方向、また必要であればプロジェクターの高さを調整します。

⑦ リモコンが機能しない。

原因	対応
電池が切れています。	電池を新しい電池に交換します。
リモコンとプロジェクターの間に障害物があります。	障害物を取り除いてください。
プロジェクターからの距離が遠すぎます。	プロジェクターから 8 メートル（26 フィート）以内の場所に立ちます。

外形寸法

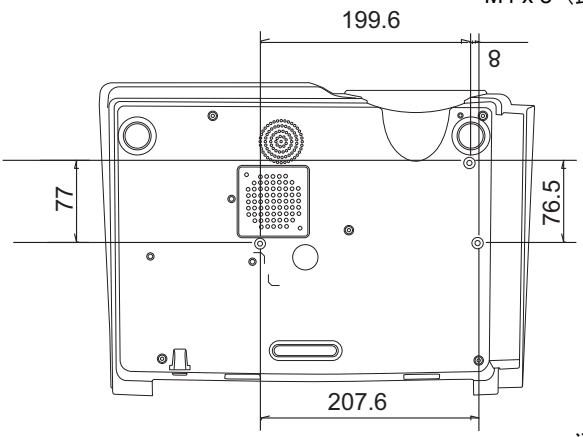
415.5 mm（幅）x 149.6 mm（高さ）x 298 mm（奥行き）（突起部分を含む）



単位：mm

天井取り付け

◎ 天井取り付けネジ：
M4 x 8（最長 = 8 mm）



単位：mm

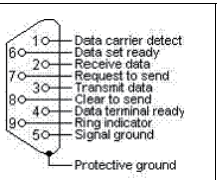
IR 制御表

キー	フォーマット	Byte1	Byte2	Byte3	Byte4
Freeze	NEC	83	F4	03	FC
Blank	NEC	83	F4	07	F8
Auto sync	NEC	83	F4	08	F7
上	NEC	83	F4	0B	F4
下	NEC	83	F4	0C	F3
左	NEC	83	F4	0E	F1
右	NEC	83	F4	0F	F0
Color Mode	NEC	83	F4	10	EF
縦横比	NEC	83	F4	13	EC
ミュート	NEC	83	F4	14	EB
Enter	NEC	83	F4	15	EA
電源オン	NEC	83	F4	17	E8
3D	NEC	83	F4	20	DF
プレゼンテーション タイマー	NEC	83	F4	27	D8
Exit	NEC	83	F4	28	D7
D. ECO (Eco mode)	NEC	83	F4	2B	D4
Menu	NEC	83	F4	30	CF
拡大	NEC	83	F4	32	CD
Source	NEC	83	F4	40	BF
COMP1	NEC	83	F4	41	BE
COMP2	NEC	83	F4	45	BA
Pattern	NEC	83	F4	55	AA
HDMI	NEC	83	F4	58	A7
音量を上げる	NEC	83	F4	82	7D
音量を下げる	NEC	83	F4	83	7C
情報	NEC	83	F4	97	68
Video	NEC	83	F4	9F	60

RS232 コマンド表

< 両端のピン割り当て >

ピン	説明	ピン	説明
1	NC	2	RX
3	TX	4	NC
5	GND	6	NC
7	RTSZ	8	CTSZ
9	NC		



< インターフェイス >

RS-232 プロトコル	
ボーレート	115200 bps（デフォルト）
データ長	8 ビット
パリティ チェック	なし
ストップビット	1 ビット
フロー制御	なし

<RS232 コマンド表 >

機能	状態	操作	コマンド
電源	書き込み	オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x00 0x00 0x5D
		オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x01 0x00 0x5E
	読み取り	電源状態（オン / オフ）	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x00 0x5E
高地対応モード	書き込み	高地対応モードオフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x0C 0x00 0x69
		高地対応モードオン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x0C 0x01 0x6A
	読み取り	高地対応モードの状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x0C 0x6A
光源モード	書き込み	標準	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x10 0x00 0x6D
		Eco	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x10 0x01 0x6E
	読み取り	光源モードの状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x10 0x6E

プロジェクターの配置	書き込み	前面投写	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x00 0x00 0x5E
		リア投写	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x00 0x01 0x5F
		天井リア投写	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x00 0x02 0x60
		天井前面投射	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x00 0x03 0x61
	読み取り	プロジェクター位置の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x00 0x5F
3D 同期	書き込み	自動	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x32 0x00 0x8F
		上 - 下	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x32 0x01 0x90
		F. シーケンシャル	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x32 0x02 0x91
		フレームパッキング	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x32 0x03 0x92
		横に並べる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x32 0x04 0x93
		オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x32 0x05 0x94
	読み取り	3D 同期の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x32 0x90
コントラスト	書き込み	コントラストを下げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x02 0x00 0x60
		コントラストを上げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x02 0x01 0x61
	読み取り	コントラスト比	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x02 0x61
輝度	書き込み	輝度を下げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x03 0x00 0x61
		輝度を上げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x03 0x01 0x62
	読み取り	輝度	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x03 0x62
縦横比	書き込み	縦横比自動	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x04 0x00 0x62
		縦横比リアル	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x04 0x01 0x63
		縦横比 4:3	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x04 0x02 0x64
		縦横比 16:9	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x04 0x03 0x65
		縦横比 16:10	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x04 0x04 0x66
	読み取り	縦横比	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x04 0x63
自動調整	実行		0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x05 0x00 0x63

色温度	書き込み	色温度（寒色）	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x08 0x00 0x66
		色温度（標準）	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x08 0x01 0x67
		色温度（暖色）	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x08 0x02 0x68
	読み取り	色温度の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x08 0x67
空白	書き込み	空白オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x09 0x01 0x68
		空白オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x09 0x00 0x67
	読み取り	空白の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x09 0x68
カラーモード	書き込み	輝度	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0B 0x00 0x69
		ダイナミック	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0B 0x01 0x6A
		標準	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0B 0x02 0x6B
		sRGB（または ViewMatch sRGB）	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0B 0x03 0x6C
		ムービー	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0B 0x04 0x6D
		3D	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0B 0x05 0x6E
	読み取り	カラーモードの状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x0B 0x6A
フリーズ	書き込み	フリーズ オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x00 0x01 0x60
		フリーズ オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x00 0x00 0x5F
	読み取り	フリーズの状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x13 0x00 0x60
ソース入力	書き込み	入力源 D-Sub / Comp.1	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x01 0x00 0x60
		入力源 D-Sub / Comp.2	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x01 0x01 0x61
		入力源 HDMI 1	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x01 0x03 0x63
		入力源 HDMI 2/MHL	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x01 0x06 0x66
		入力源 Video	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x01 0x04 0x64
		入力源 S-Video	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x01 0x05 0x65
	読み取り	ソース	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x13 0x01 0x61

クイック自動検索	書き込み	クイック自動検索オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x02 0x01 0x62
		クイック自動検索オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x02 0x00 0x61
	読み取り	クイック自動検索の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x13 0x02 0x62
ミュート	書き込み	ミュート オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x14 0x00 0x01 0x61
		ミュート オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x14 0x00 0x00 0x60
	読み取り	ミュートの状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x14 0x00 0x61
音量	書き込み	音量を上げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x14 0x01 0x00 0x61
		音量を下げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x14 0x02 0x00 0x62
	読み取り	音量	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x14 0x03 0x64
光源時間	書き込み	光源の使用時間をリセット	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x01 0x00 0x62
	読み取り	光源の使用時間	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x15 0x01 0x63
Brilliant Color	書き込み	Brilliant Color オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x00 0x6D
		Brilliant Color オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x01 0x6E
	読み取り	Brilliant Color の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x0F 0x6E
リモートキー	書き込み	メニュー	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x0F 0x61
		上	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x0B 0x5D
		下	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x0C 0x5E
		左	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x0D 0x5F
		右	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x0E 0x60
		ソース	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x04 0x56
		Enter	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x15 0x67
		自動	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x08 0x5A

タイミングチャート

アナログ RGB			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
VGA	640 x 480	4:3	60/72/75/85
SVGA	800 x 600	4:3	60/72/75/85
XGA	1024 x 768	4:3	60/70/75/85
	1152 x 864	4:3	75
WXGA	1280 x 768	15:9	60
	1280 x 800	16:10	60/75/85
	1360 x 768	16:9	60
Quad-VGA	1280 x 960	4:3	60/85
SXGA	1280 x 1024	5:4	60
WXGA	1366 x 768	16:9	59.7
SXGA+	1400 x 1050	4:3	60
WXGA+	1440 x 900	16:10	60
UXGA	1600 x 1200	4:3	60
WSXGA+	1680 x 1050	16:10	60
HD	1280 x 720	16:9	60
MAC 13"	640 x 480	4:3	67
MAC 16"	832 x 624	4:3	75
MAC 19"	1024 x 768	4:3	75
MAC 21"	1152 x 870	4:3	75
HDTV (1080p)	1920 x 1080	16:9	60

HDMI			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
VGA	640 x 480	4:3	60
SVGA	800 x 600	4:3	60
XGA	1024 x 768	4:3	60
WXGA	1280 x 768	15:9	60
	1280 x 800	16:10	60
	1360 x 768	16:9	60
Quad-VGA	1280 x 960	4:3	60
SXGA	1280 x 1024	5:4	60
WXGA	1366 x 768	16:9	59.7
SXGA+	1400 x 1050	4:3	60
WXGA+	1440 x 900	16:10	60
WSXGA+	1680 x 1050	16:10	60
HDTV (1080p)	1920 x 1080	16:9	50 / 60
HDTV (1080i)	1920 x 1080	16:9	50 / 60
HDTV (720p)	1280 x 720	16:9	50 / 60
SDTV (480p)	720 x 480	4:3 / 16:9	60
SDTV (576p)	720 x 576	4:3 / 16:9	50
SDTV (480i)	720 x 480	4:3 / 16:9	60
SDTV (576i)	720 x 576	4:3 / 16:9	50

3D（HDMI 信号を含む）			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
SVGA	800 x 600	4:3	60* / 120**
XGA	1024 x 768	4:3	60* / 120**
HD	1280 x 720	16:9	60* / 120**
WXGA	1280 x 800	16:9	60* / 120**
ビデオ信号用			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
SDTV (480i)***	720 x 480	4:3 / 16:9	60

*** 50Hz および 60Hz 信号は、横に並べる、上 - 下、F. シーケンシャルフォーマットでサポートされています。**

**** 120 Hz 信号は、F. シーケンシャル フォーマットでのみサポートされています。**

***** ビデオ信号 (SDTV 480i) は、F. シーケンシャル フォーマットでのみサポートされています。**

HDMI 3D			
フレームパッキング方式			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
1080p	1920 x 1080	16:9	23.98/24
720p	1280 x 720	16:9	50/59.94/60
横に並べる フォーマット			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
1080i	1920 x 1080	16:9	50/59.94/60
720p	1280 x 720	16:9	50/59.94/60
上 - 下 フォーマット			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
1080p	1920 x 1080	16:9	23.98/24
720p	1280 x 720	16:9	50/59.94/60

コンポーネントビデオ			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
HDTV (1080p)	1920 x 1080	16:9	50 / 60
HDTV (1080i)	1920 x 1080	16:9	50 / 60
HDTV (720p)	1280 x 720	16:9	50 / 60
SDTV (480p)	720 x 480	4:3 / 16:9	60
SDTV (576p)	720 x 576	4:3 / 16:9	50
SDTV (480i)	720 x 480	4:3 / 16:9	60
SDTV (576i)	720 x 576	4:3 / 16:9	50

コンポジットビデオ		
信号	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
NTSC	4:3	60
PAL	4:3	50
PAL60	4:3	60
SECAM	4:3	50

プロジェクターの仕様

仕様はすべて予告なく変更されることがあります。

お住まい地域によっては、販売されていないモデルもあります。

仕様	
解像度	0.55" XGA (1024 x 768)
投写率	0.61
ディスプレイ システム	1-CHIP DMD
光源	LASER DIODE NUBM08 8 個 x 2
入力コネクタ	
RGB 入力	2
コンポーネント入力	RGB 入力と共有
S ビデオ	1
コンポジット入力	1
オーディオ入力	1
RCA R&L	1
Mini USB	1（ファームウェア アップグレード）
HDMI (1.4a)	1
HDMI/MHL	1
出力コネクタ	
RGB 出力	1
USB-A	1（電力供給）
オーディオ出力	1
スピーカー	10 watt x 2
制御端末	
RS-232 シリアル コントロール	9 ピン x 1
LAN	RJ45 x 1
IR 受信機	2（正面、背面）
12 V トリガー	1
機械的仕様	
純量	5.6 Kg (12.3 lbs)
電気	
電源	AC 100–240V、50–60 Hz
消費電力	標準：305 W（最大）、<0.5 W（スタンバイ）
環境要件	
動作温度範囲	0°C – 40°C（海抜）
操作高度	0 – 1499 m (0°C – 35°C) 0°C – 30°C で 1500 – 3000 m （**高地対応モード**オン）
動作相対湿度	10% ～ 90%（結露なきこと）

著作権情報

著作権

Copyright © 2017. All rights reserved。本書のいかなる部分も、ViewSonic Corporation の事前の書面による同意なく、電子的、機械的、磁気的、光学的、化学的、手動その他の手段を問わず、複製、転載、改変、検索システムへの保存、他言語またはコンピュータ言語への翻訳を行うことはできません。

おことわり

ViewSonic コーポレーションは、明示的または暗示的を問わず、本書の内容に関して、特に保証、商業的可能性、特定目的への適合性に関しては、いかなる表明または保証もいたしません。さらに、ViewSonic コーポレーションは本書を改定する権利と、このような改定や変更についていかなる人物に対しても通知する義務を負うことなく内容を変更できる権利を有しています。

*DLP、Digital Micromirror Device (DMD) は、Texas Instruments の商標です。その他の著作権は各社または各組織に帰属します。

カスタマーサポート

技術サポートまたは製品サービスについては、下表を参照するか販売店にお問い合わせください。
注意： 製品のシリアル番号が必要となります。

国/ 地域	ウェブサイト	電話	電子メール
オーストラリア／ニュージーランド	www.viewsonic.com.au	AUS= 1800 880 818 NZ= 0800 008 822	service@au.viewsonic.com
香港	www.hk.viewsonic.com	T= 852 3102 2900	service@hk.viewsonic.com
台湾	www.viewsonic.com.tw	T= 886 2 2246 3456 F= 886 2 2249 1751 Toll Free= 0800-899880	service@tw.viewsonic.com
韓国	ap.viewsonic.com/kr/	T= 080 333 2131	service@kr.viewsonic.com
日本	www.viewsonicjapan.co.jp	0120 341 329	service@jp.viewsonic.com
マカオ	www.hk.viewsonic.com	T= 853 2870 0303	service@hk.viewsonic.com
中東	ap.viewsonic.com/me/	Contact your reseller	service@ap.viewsonic.com
インド	www.in.viewsonic.com	T= 1800 266 0101	service@in.viewsonic.com
シンガポール / マレーシア / タイ	www.ap.viewsonic.com	T= 65 6461 6044	service@sg.viewsonic.com

限定保証

ViewSonic® プロジェクター

保証の範囲：
ViewSonic は、保証期間内において、当社製品がその正常な使用下で材質及び製造に欠陥がないことを保証します。保障期間内に製品の材質または製造に欠陥が認められた場合、ViewSonic は当社単独の選択で当該製品の修理または同等製品との交換を行います。代替製品または部品は、再生または修復された部品または部材を含んでいることがあります。

限定 3 年間一般保証：
以下に定めるより限定された 1 年間保証に従属します、北米および南米: ランプを除くすべての部品に対する 3 年間保証、3 年間の動作保証、および、元のランプに対する最初の消費者の購入日から５００時間又は六ヶ月間の保証。
その他の地域または国: 保証情報については、お近くの販売店または現地の ViewSonic 事務所に確認してください。

限定 1 年間高頻度使用保証：
一日平均使用時間が 14 時間を超える高使用頻度設定下、北米および南米: ランプを除くすべての部品に対する 1 年間保証、1 年間の動作保証、および、元のランプに対する最初の消費者の購入日から 90 日間の保証。
欧州: ランプを除くすべての部品に対する 1 年間保証、1 年間の動作保証、および、元のランプに対する最初の消費者の購入日から 90 日間の保証。
その他の地域または国: 保証情報については、お近くの販売店または現地の ViewSonic 事務所に確認してください。
ランプの保証は、利用条件、検証および承認に従属します。 製造者の設置したランプにのみ適用されます。 別途購入したすべての付属品ランプは、90 日間保証されます。

保証の対象者：
この保証は最初に製品をお買い上げになった消費者の方のみを対象にしています。

次の場合、この保証の対象外となります：
1. シリアル番号が損傷、修正または取り除かれた製品。
2. 次を原因とする損傷、破損または故障：
    a. 事故、誤用、不適切な取り扱い、火災、水害、落雷、その他天災地変、許可のない製品の改造、または製品の取扱説明書を逸脱して使用した場合。
    b. 製品の仕様外の操作。
    c. 通常の意図された使用、または、通常の条件下ではない製品の操作。
    d. ViewSonic から権限を付与されていない人物による修理または修理の試み。
    e. 輸送による製品の損害。
    f. 製品の取り外しまたは設置。
    g. 異常電圧や停電など、製品外部の原因。
    h. ViewSonic の仕様に合わない消耗品や部品の使用。
    i. 正常損耗。
    j. 製品の欠陥に無関係のその他原因。
3. 取り外し、取り付け、一方向の輸送、保険およびサービス料のセットアップ。

サービスを受けるには：

1. 保証に基づきサービスを受けるには、ViewSonic カスタマーサポートにお問い合わせください（カスタマーサポートページを参照）。その際製品のシリアル番号を示す必要があります。
2. 保証サービスを受けるには、(a) 日付入りの保証書原本、(b) お名前、(c) ご住所、(d) 問題の詳細、(e) 製品のシリアル番号の提示が求められます。
3. 製品を元の箱に梱包し、ViewSonic の認定サービスセンターまたは ViewSonic に持ち込みまたはご送付ください。
4. より詳しい説明は ViewSonic カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

黙示保証の制限：

特定目的に対する適合性の黙示保証を含め、明示的または黙示的を問わず、ここで説明される内容を超えたいかなる保証もありません。

損害の除外：

ViewSonic の賠償責任は製品の修理または代替の費用に限定されます。ViewSonic は次に対し賠償の責を負いません：

1. 当社がそのような損失の可能性について報告を受けていたとしても、本製品の欠陥により発生した他の財産に対する損害、不便さ、本製品の使用不能、時間的損失、利益の損失、商業的機会の損失、商業的信用の損失、取引関係への干渉、またはその他商業的損失に基づく損害。
2. 二次的、間接的またはその他を問わず、その他あらゆる損害。
3. 第三者によるお客様に対するあらゆる要求。
4. ViewSonic から権限を付与されていない人物による修理または修理の試み。

州法の発効：

本保証はお客様に特定の法律上の権利を付与します。お客様はまた州によって異なるその他権利を有します。州によっては、黙示的保証の制限及び/ または二次的或いは間接的損害の除外を認めない場合があります。このため、上記の制限及び除外がお客様に適用されない場合があります。

米国及びカナダ以外での販売：

米国及びカナダ以外で販売された ViewSonic 製品に対する保証情報とサービスについては、ViewSonic またはお住まいの地域の ViewSonic 販売店にお問い合わせください。
中国（香港、マカオ、台湾を除く）における本製品に対する保証期間は、メンテナンス保証書に記載の条件の対象となります。
ヨーロッパとロシアのユーザーの場合、提供される保証の完全な詳細は www.viewsoniceurope.com でSupport/Warranty Information (サポート/ 保証情報) を参照してください。

ViewSonic